

I 総括報告

社会福祉法に定められた「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」（第109条）として、社会福祉に関する「協議会」であるという原点を踏まえながら、地域課題、生活課題が多様化、深刻化している状況において、関係機関、地域団体と協働しながら地域福祉の推進に努めました。同時に、高齢者福祉及び障がい者福祉、児童福祉の各事業の安定した運営、充実に努め、また、社会福祉法人制度改革に基づく法人運営を進め、法人として円滑で強固な組織体制と組織運営の基盤整備を更に進めました。

地域福祉の推進については、地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画 2015」に盛り込んだ取組の進行管理を行い、行政、関係機関、地域団体と協働しながら地域福祉を進める新たな仕組みづくり、また、地域支援の強化と個別相談支援を推進しました。

生活支援事業については、生活困窮世帯やひきこもりの若者への対応について、連携機関を増やししながら支援の充実に努め、特に就労に向けた支援を行うとともに、新たな生活支援サービスの検討を行いました。

高齢者福祉事業及び障がい者福祉事業の推進については、「第二期事業経営計画」に盛り込んだ取組を計画的に実施しながら高齢者、障がい者サービスの更なる充実、安定した事業経営に努めました。また、情報通信技術の導入による業務改善を行いました。

児童福祉事業については、保育園では地域の自然を生かした取組や住民との積極的な交流を行いながら園児の健全育成に努め、また、研修会の企画実施により職員の保育力アップを図りました。児童館、学童保育所では相互の連携強化を図りながら安全で安心な環境づくりを進め、特に学童保育所の環境整備を図りました。

高齢者、障がい者、児童の各事業所においては、施設機能や職員の専門性、マンパワーを生かしての地域の環境美化活動、催し物への参加、協力、また、介護予防や認知症予防講座等の企画、実施、各団体との地域交流を積極的に行い、地域への貢献を意識した実践を更に進めました。

このような状況の中で、地域福祉を推進する中核的な地域団体として各事業所が課題の共有と連携を図り、市民はもとより行政、関係機関、団体からのご理解とご協力をいただき、地域福祉活動の推進と事業経営の健全化に向けて各事業計画の遂行に努めました。

重点事業

(1) 地域福祉活動の推進

地域福祉活動計画の中間年検証を踏まえ、地域課題への対応として相談支援体制の強化、あり方を検討し、具体的にはコミュニティソーシャルワーク¹実践を充実するための仕組みや体制整備の検討を行いました。また、各福祉センターで策定した「地域支え合

¹ コミュニティソーシャルワーク：援助を個別化するだけでなく、地域（社会）共通の課題と捉え、個人の援助とそれを支える地域（社会）の活動への支援を同時並行的に働きかけていく活動。

いプラン」の推進については、各地域福祉委員会において事業推進に対する意見交換等を行いながら進行管理に努めました。同時に、鶴岡地区における「地域支え合いプラン」作成を進めました。

社会福祉法人が行う公益的な取組への支援については、今後の公益的な取組への一助を担うべく、鶴岡地区特養連絡協議会 9 法人に対する取組状況調査、並びに懇談会、情報交換を実施しました。

(2) 自立相談支援事業と権利擁護活動の推進

鶴岡地域生活自立支援センター「くらしス」を拠点に関係機関とのネットワーク、多職種との連携を図りながら、社会的孤立者や生活困窮者への相談、支援の更なる充実に努めました。特に相談者への就労支援として、就労訓練受入れ企業の開拓や就労体験受入事業を通じた一般就労に向けた支援を行い、相談者の自立支援に努めました。同時に、既存の制度やサービスでは対応できない生活支援サービス事業の検討を行いました。また、各関係機関の協力を得て権利擁護活動及び成年後見制度に関する研修会を開催し、権利擁護の推進に努めました。

(3) 高齢者福祉、障がい者福祉事業の充実

「第二期 事業経営計画」に基づき計画的に事業を推進するとともに、計画の中間評価を踏まえながら継続して取り組む内容や新たな取組を検討し、「共生型サービス」のあり方については継続して研究、検討を進めました。また、介護職員実務者研修通信課程の開講については計画どおり実施し、介護職員の人財確保・育成の一助としました。

各施設における地域貢献活動の展開については、現状の取組の充実に図りながら更なる活動の検討を行いました。

県の補助金を活用して情報通信技術を導入し、業務の効率化等を図るとともに職員の負担を軽減し、働きやすい職場づくりに取り組みました。

(4) 児童福祉事業の充実

保育園、児童館、学童保育所・放課後児童クラブ（放課後児童健全育成事業）の事業運営については、特に事務管理の効率化、リスクマネジメント体制の強化を更に進めながら事業の充実に努めました。児童福祉施設における地域貢献活動については、特に児童館相互の連携強化とともに施設機能を活用した取組について検討、実践しました。また、学童保育所の登録者数の増加への対応として借家による施設整備を進め、保育スペースの確保に努めました。

(5) 法人運営の充実・強化

「発展・強化計画（第 2 期）」において、「法人組織運営と組織体制の強化」として位置付けた各種取組を進めながら組織強化を図り、特に、本部事務局組織の見直し、強化について検討を行いました。同時に、社会福祉法人制度改革についての的確な事務事業を

進め、理事会、評議員会の適正な運営、会計監査人の設置を通じての経営組織のガバナンスの強化に努めました。

(6) 「生活支援・介護予防の基盤整備」に向けた体制整備

「介護予防・日常生活支援総合事業」における生活支援コーディネーター²の配置については、社協の3つの地域包括支援センターに1人ずつコーディネーターを配置し、他法人に配置されたコーディネーター、また、社協の地域福祉課と連携しながら、高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備に取り組みました。

² 生活支援コーディネーター：高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進していくことを目的とし、地域において、生活支援、介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能（主に資源開発やネットワーク構築の機能）を果たす者。

Ⅱ 法人運営

【30年度役員】

	職名	氏名
30.4.1	会長	山木知也
	副会長	山口 朗、板垣壯典、佐藤智志 (30.6.30 まで)
	常務理事	齋藤和也
	理事	畑山孝一、齋藤 功、佐藤正明、佐藤 稔、成澤辰己、 安達文一、齋藤榮三郎、武田憲夫、宅井洋子、工藤 精、 澤邊みさ子
	監事	阿部 繁、長谷川 清、相澤康夫
	評議員	佐々木栄三、菊地善教 (30.5.10 まで)、 佐藤光雄 (30.4.20 まで)、佐藤藤重郎、百瀬清昭、 成田 勇 (30.4.20 まで)、奥井 厚、大塚捷一、 半澤正昭、榎本トヨ、遠藤 勉、佐藤宥男、五十嵐光雄、 齋藤秀雄、渡邊 健、中野 洋 (30.4.13 まで)、 佐藤以中、武田功之、伊藤貫正、石川一郎、後藤るみ、 佐藤満子、佐藤重勝、小松金悦郎、岩浪武司、千田洋子、 橋本廣美、日向謙一、加藤由喜子、平藤博巳、門脇えり子、 齋藤 積
30.6.13	評議員	長南吉美、櫻井修治、平田充廣、小林幸一、成沢日登司、 生田浩樹、鈴木一成
30.7.1	理事	阿部恵子
30.9.19	副会長	阿部恵子

1. 理事会・評議員会開催報告

第1回理事会 平成30年6月12日（火）

【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会苦情解決第三者委員の選任について
※議第1号として5月18日付けで提案書を送付、理事全員より同意書、監事より確認書の提出を受け議決されたものとみなし、報告案件としたもの
- 報告3 理事検討班の経過について

【議事】

- 議第2号 平成30年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について
- 議第3号 平成29年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業報告の承認について
- 議第4号 平成29年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出決算の承認について
- 議第5号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第6号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事務局次長の選任について
- 議第7号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会平成30年度第1回評議員会の開催について
- 議第8号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任候補者の選出について
- 議第9号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任委員会の開催について
- 議第10号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任委員の選任について

第2回理事会 平成30年9月19日（水）

【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について

【議事】

- 議第11号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会定款の一部改正について
- 議第12号 地域包括支援センターの再編に伴う関係事業所運営規程の廃止について
- 議第13号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会組織機構等に関する規程の一部改正について
- 議第14号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会公印管理規程の一部改正について
- 議第15号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会就業規則の一部改正について
- 議第16号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会経理規程の一部改正について
- 議第17号 指定生活介護事業所・指定自立訓練（機能訓練）事業所なえづ生活介護・自立訓練（機能訓練）事業所運営規程の一部改正について

- 議第18号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会地域包括支援センターかたりあい運営規程の制定について
- 議第19号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会地域包括支援センターなえづ運営規程の制定について
- 議第20号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会地域包括支援センターくしびき運営規程の制定について
- 議第21号 指定介護予防支援事業所地域包括支援センターかたりあい運営規程の制定について
- 議第22号 指定介護予防支援事業所地域包括支援センターなえづ運営規程の制定について
- 議第23号 指定介護予防支援事業所地域包括支援センターくしびき運営規程の制定について
- 議第24号 保育料改定等に伴う放課後児童健全育成事業関係事業所運営規程の一部改正について
- 議第25号 平成30年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について
- 議第26号 パソコン（ハードウェア）及びプリンター関連機器のリース契約について
- 議第27号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会副会長の選定について
- 議第28号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会平成30年度第2回評議員会の開催について

【その他】

契約職員の無期労働契約転換について

第3回理事会 平成30年12月20日（木）

【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について
- 報告3 継続による指定管理の指定申請について

【議事】

- 議第29号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規程の制定について

【その他】

- (1) 平成30年度山形県福工連携による安心介護モデル創出事業補助金について
- (2) 公益社団法人鶴岡青年会議所との「鶴岡市災害ボランティアセンターの運営等に関する協定」締結について

第4回理事会 平成31年3月19日（火）

【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について
- 報告3 営業日変更に伴う関係事業所運営規程の一部改正について
- 報告4 鶴岡市社会福祉協議会福祉有償運送実施要綱の一部改正について
- 報告5 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資格取得助成要綱の一部改正について
- 報告6 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会自主研修助成要綱の一部改正について
- 報告7 理事検討班の検討経過について

【議事】

- 議第30号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会定款の一部改正について
- 議第31号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会組織機構等に関する規程の一部改正について
- 議第32号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会経理規程の一部改正について
- 議第33号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員育児休業・介護休業等に関する規程の一部改正について
- 議第34号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員の懲戒処分の基準に関する規程の一部改正について
- 議第35号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会法令遵守規程の一部改正について
- 議第36号 鶴岡市社会福祉協議会地域福祉を推進する委員会等の設置に関する規程の全部改正について
- 議第37号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会私有車の業務使用に関する要綱の全部改正について
- 議第38号 平成30年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について
- 議第39号 平成31年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業計画について
- 議第40号 平成31年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出予算について
- 議第41号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会平成30年度第3回評議員会の開催について

【その他】

- 理事の推薦区分について

第1回評議員会 平成30年6月28日（木）

【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会経理規程の一部改正について
- 報告3 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会苦情解決第三者委員の選任について
- 報告4 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事務局次長の選任結果について

報告 5 理事検討班の経過について

【議事】

議第 1 号 平成 3 0 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について

議第 2 号 平成 2 9 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業報告の承認について

議第 3 号 平成 2 9 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出決算の承認について

議第 4 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

第 2 回評議員会 平成 3 0 年 9 月 2 8 日（金）

【報告】

報告 1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会副会長の選定結果について

報告 2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について

報告 3 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について

報告 4 保育料改定等に伴う放課後児童健全育成事業関係事業所運営規程の一部改正について

【議事】

議第 5 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会定款の一部改正について

議第 6 号 平成 3 0 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について

【その他】

契約職員の無期労働契約転換について

第 3 回評議員会 平成 3 1 年 3 月 2 8 日（木）

【報告】

報告 1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について

報告 2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について

報告 3 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会組織機構等に関する規程の一部改正について

報告 4 鶴岡市社会福祉協議会地域福祉を推進する委員会等の設置に関する規程の全部改正について

報告 5 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規程の制定について

報告 6 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員育児休業・介護休業等に関する規程の一部改正について

報告 7 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員の懲戒処分の基準に関する規程の一部改正について

報告 8 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会法令遵守規程の一部改正について

報告 9 営業日変更に伴う関係事業所運営規程の一部改正について

報告 10 継続による指定管理の指定申請について

報告 11 理事検討班の検討経過について

【議事】

議第 7 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会定款の一部改正について

議第 8 号 平成 30 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について

議第 9 号 平成 31 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業計画について

議第 10 号 平成 31 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出予算について

2. 監査実施報告

第 1 回監査 平成 30 年 5 月 30 日（水）

【内容】 平成 29 年度事業報告及び決算等に係る監査

第 2 回監査 平成 30 年 8 月 24 日（金）

【内容】 施設（くしびき東部保育園、鶴岡市ゆうあいプラザ）訪問による監査（平成 30 年 4 月～6 月期）

第 3 回監査 平成 30 年 11 月 29 日（木）

【内容】 平成 30 年度半期（平成 30 年 4 月～9 月期）監査

第 4 回監査 平成 31 年 2 月 25 日（月）

【内容】 施設（鶴岡南部児童館、特別養護老人ホームおおやま（短期入所センターおおやま含む））訪問による監査（平成 30 年 4 月～12 月期）

3. 会計監査人による監査実施報告

期末監査 平成 30 年 5 月 21 日（月）～5 月 25 日（金）

【内容】 平成 29 年度計算書類及び財産目録の監査

第 1 回期中監査 平成 30 年 11 月 5 日（月）～11 月 9 日（金）

【内容】 監査（平成 30 年 4 月～9 月期）、施設訪問（老人デイサービスセンターふれあい、鶴岡ふれあいプラザかたりあい（訪問介護事業所、地域包括支援センター））

第 2 回期中監査 平成 31 年 3 月 25 日（月）～3 月 29 日（金）

【内容】 監査（平成 30 年 10 月～平成 31 年 1 月期）、施設訪問（地域福祉センターなえづ、鶴岡市ゆうあいプラザ）

4. 理事検討班実施状況

法人運営検討班 平成30年12月20日(木)

- 【内容】 1. 発展・強化計画(第2期)の進捗状況について
2. 発展・強化計画(第2期)に基づく総務課の見直し・強化について

地域福祉検討班 平成30年12月20日(木)

- 【内容】 1. 地域福祉課の見直し・強化について
2. 「おだがいさまのまちづくり計画2015」の進行管理・中間検証について

事業経営検討班 平成30年12月20日(木)

- 【内容】 1. 第2期事業経営計画の進捗状況について

5. 事業推進報告

- 4月 2日 辞令交付式(かたぐるま)
24日 鶴岡市戦没者追悼式(参集殿/150名)
27日 第1回福祉サービス利用援助事業生活支援員会議
(保健福祉センター/27名)
- 5月 2日 センター長会議(保健福祉センター)
16日 くしびきデイサービスセンター及び鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるま
車両リース入札会(櫛引老人福祉センター)
落札者: ㈱トヨタレンタリース山形
落札金額: 3,645,120円
21日 会計監査人による期末監査(~25日まで・保健福祉センター)
22日 第1回組織体制等検討会議(保健福祉センター)
30日 平成29年度事業報告及び決算等に係る監査(保健福祉センター)
31日 特別養護老人ホームおおやま車いすリース入札会(高齢者福祉センター
おおやま)
落札者: ㈱タマツ
落札金額: 1,829,520円
- 6月 1日 鶴岡老人福祉センター芸能のつどい(老人福祉センター/70名)
三役会議(保健福祉センター)
11日 介護職員初任者研修開講式(かたりあい/13名)
12日 第1回理事会(保健福祉センター)
13日 第1回評議員選任委員会(保健福祉センター)
14日 庄内地域広げようボランティアの輪連絡会議
(保健福祉センター/14名)
19日 自治組織研修会並びに会費説明会(参集殿/123名)

- 20日 西部児童館運営委員会（西部児童館）
- 21日 暘光児童館運営委員会（暘光児童館）
- 22日 南部児童館運営委員会（南部児童館）
- 25日 事業経営会議（保健福祉センター）
- 28日 第1回評議員会（保健福祉センター）
- 29日 大山児童館運営委員会（大山児童館）
- 7月 2日 中央児童館運営委員会（中央児童館）
第1回法人後見運営委員会（保健福祉センター／13名）
- 3日 苦情処理経過報告会議（保健福祉センター）
- 5日 特別養護老人ホームおおやま特殊浴槽購入入札会
（高齢者福祉センターおおやま）
落札者：(株)トーク
落札金額：6,264,000円
- 7日 江戸川区ボランティアとの交流行事（～8日まで）
（江戸川区タワーホール船堀／17名）
- 9日 櫛引地域福祉委員会（櫛引老人福祉センター）
- 13日 とようら老人デイサービスセンター空調設備改修工事入札会
（保健福祉センター）
落札者：桜井管工業(株)
落札金額：5,162,400円
- 17日 平成31年度職員採用試験募集開始（～8月20日まで）
- 19日 羽黒地域福祉委員会（羽黒老人福祉センター）
- 23日 藤島地域福祉委員会（市藤島庁舎）
- 24日 朝日地域福祉委員会（朝日ふっくら）
- 26日 学区・地区社協連絡委員会研修会
（委員会：鶴岡アートフォーラム／32名）
（研修会：東北公益大学鶴岡キャンパス大学院ホール／61名）
- 8月 7日 老人デイサービスセンターふれあい車両リース入札会
落札者：(株)トヨタレンタリース山形
落札金額：3,492,000円
- 10日 戸沢村災害ボランティアセンターへ職員派遣（～23日まで／
延べ23名）
- 17日 介護職員初任者研修修了式（かたりあい／13名）
- 23日 介護職員実務者研修通信課程スクーリング開始
（かたりあい／13名）
- 24日 監査（平成30年4月～6月期・鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるま／
くしびき東部保育園）
- 31日 福祉のつどい表彰審査委員会（社協事務局会議室）

- 9月 2日 職員採用一次試験（保健福祉センター／19名）
 3日 辞令交付式（9月1日付）
 10日 三役会議（保健福祉センター）
 19日 第2回理事会（保健福祉センター）
 23日 職員採用二次試験（保健福祉センター／15名）
 25日 事業経営会議（保健福祉センター）
 27日 温海地域福祉委員会（温海ふれあいセンター）
 28日 第2回評議員会（櫛引生涯学習センター）
 社協公開研修（出羽庄内国際村／167名）
 30日 高校新卒者採用試験（保健福祉センター／1名）
- 10月 1日 辞令交付式（10月1日付）
 2日 デイサービスセンター合同すごろく大会
 （櫛引生涯学習センター／236名）
 10日 鶴岡市社協福祉のつどい（中央公民館／340名）
 20日 職員内部登用一次試験（保健福祉センター／13名）
 24日 無期労働契約説明会（保健福祉センター／管理職25名）
 29日 無期労働契約説明会（～11／1まで）
 （鶴岡市ゆうあいプラザ・保健福祉センター／対象職員228名）
 31日 鶴岡老人福祉センターまつり（鶴岡老人福祉センター／81名）
- 11月 2日 くしびきすこやかセンター改修工事入札会（かたりあい）
 落札者：(株)王祇建設
 落札金額：14,580,000円
 5日 会計監査人による期中監査（～9日まで）
 （保健福祉センター・老人デイサービスセンターふれあい・かたりあい）
 7日 発展・強化計画進行管理会議（庄内産業振興センター）
 9日 高齢者福祉センターおおやま照明器具LED化工事入札会
 （高齢者福祉センターおおやま）
 落札者：(有)マーケットクリエイト
 落札金額：2,322,000円
 12日 地域福祉推進研修会（荘銀タクト小ホール／79名）
 15日 職員内部登用二次試験（保健福祉センター／13名）
 朝日地域福祉委員会（朝日ふっくら）
 29日 西部児童館運営委員会（西部児童館）
 監事監査（保健福祉センター）
- 12月 6日 大山児童館運営委員会（大山コミセン）
 7日 南部児童館運営委員会（南部児童館）
 10日 三役会議（保健福祉センター）

- 1 3 日 暘光児童館運営委員会（暘光児童館）
事業経営会議（保健福祉センター）
- 1 4 日 歳末たすけあい募金配分委員会（保健福祉センター）
- 1 7 日 中央児童館運営委員会（中央児童館）
- 1 9 日 情報管理研修会（勤労者会館／8 1 名）
- 2 0 日 第3回理事会（保健福祉センター）
理事検討班会議（法人運営検討班・地域福祉検討班・事業経営検討班／
保健福祉センター）
- 2 6 日 鶴岡市災害ボランティアセンターの運営等に関する協定締結式
（保健福祉センター）
- 1 月 3 0 日 第2回法人後見運営委員会（保健福祉センター）
- 2 月 2 日 ボランティア交流2 0 1 8（保健福祉センター／6 0 名）
- 2 2 日 社会福祉法人連携による公益的な取組にかかる懇談会
（出羽庄内国際村／4 4 名）
- 2 5 日 監査（平成3 0 年4 月～1 2 月期／特別養護老人ホームおおやま・
鶴岡南部児童館）
- 2 6 日 学区・地区社協役員・コーディネーター等研修会
（中央公民館／5 3 名）
- 2 7 日 朝日地域福祉委員会（朝日ふっくら）
- 2 8 日 温海地域福祉委員会（温海ふれあいセンター）
“わくわく”居場所づくり研修会（保健福祉センター／7 9 名）
- 3 月 7 日 藤島地域福祉委員会（春月）
成年後見連絡会（月山荘）
- 8 日 三役会議（保健福祉センター）
- 1 2 日 ボランティアセンター運営委員会（保健福祉センター）
- 1 4 日 事業経営会議（保健福祉センター）
- 1 5 日 櫛引地域福祉委員会（櫛引老人福祉センター）
- 1 9 日 第4回理事会（保健福祉センター）
- 2 2 日 災害ボランティアセンター連絡会（勤労者会館）
- 2 5 日 会計監査人による期中監査（～2 9 日まで）
（保健福祉センター・地域福祉センターなえづ・鶴岡市ゆうあいプラザ
かたぐるま）
- 2 8 日 第3回評議員会（勤労者会館）
- 2 9 日 退職辞令交付式（保健福祉センター）
高齢者福祉センターおおやま一般廃棄物及び産業廃棄物収集運搬業務
入札会（高齢者福祉センターおおやま）
落札者：(有)大滝商店
落札金額：2, 0 0 6, 8 5 6 円

高齢者福祉センターおおやま防火対象物点検業務及び消防設備等点検
業務入札会（高齢者福祉センターおおやま）

落札者：山形ニッタン(株)庄内支社

落札金額：1,051,920円

6. 広報「おだがいさま」発行状況

第75号 4月1日発行

第76号 6月1日発行

第77号 8月1日発行

第78号 10月1日発行

第79号 12月1日発行

第80号 2月1日発行

Ⅲ 組織運営

(1) 社会福祉法人としての適正な運営

改正社会福祉法施行後2年目となり、理事会や評議員会などスムーズに運営することができました。

また、監事や会計監査人による指摘事項や指導に対しては、できる限り早期対応に努めました。

(2) 事務局体制の見直し・強化

総務課を中心とする業務の見直しや課の再編について検討を重ね、組織機構等に関する規程の一部改正を行うなど将来的な事務局再編の足掛かりとしました。

また、30年度初めて専門員（期限的）を導入し業務効率の向上に努めるとともに、勤怠管理システム導入に向けて機器の設置についても取り組みました。

労働法改正による無期雇用転換への対応については、対象職員向けの説明会を開催するとともに準職員に関わる規程を整備しました。職員のメンタルヘルスについては、産業医からの助言、指導や個別の面談などにより対応しました。

(3) 人材確保と育成の強化

欠員状況に応じてハローワークへの依頼や求人広告の掲載、ホームページなどの活用により速やかな情報発信に努めましたが、事業所の人材不足については思うように充足することができませんでした。

また、人材育成については、30年度中に予定していた役職員別研修の実施には至りませんでした。「個人目標設定・実績評価表」「職務行動評価」「人事評価表」に継続して取り組み、人材育成の一助としました。

(4) 健全経営と経理事務の強化

監事による監査及び会計監査人の連動により、財務規律の強化、内部牽制などに、より一層努めました。また、会計監査人による指摘事項に対応することで適正な経理事務を実施することができました。

行政からの補助、委託事業、指定管理事業については、継続して協議を行いました。

(5) 「発展・強化計画（第2期）」の推進

計画の中間年として各項目の進捗状況や新たな課題を整理するとともに、今後に向けた事務局組織の見直しなどを検討しました。また、未実施だった法人のユーザー管理体制の強化については、外部の講師による研修会を開催することができました。

経年劣化や老朽化が進む建物や設備の修繕・更新、狭隘な事務局スペースについては、具体的な進展はなかったものの営繕担当専門員配置の必要性などを協議しました。

<会員・会費の状況>

地域	会員区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
鶴岡	一般会員（世帯）	27,728	27,850	27,510	27,315	27,169	
	賛助会員	個人	793	806	817	812	818
		事業所	464	461	440	443	431
	会費額	16,420,000	16,400,750	16,152,900	16,162,100	16,072,650	
藤島	一般会員（世帯）	2,538	2,560	2,582	2,616	2,642	
	賛助会員	個人	4	4	4	4	3
		事業所	61	60	54	43	37
	会費額	1,504,537	1,526,252	1,548,876	1,476,730	1,442,300	
羽黒	一般会員（世帯）	2,009	2,040	2,002	1,969	2,020	
	賛助会員	個人	4	4	5	4	3
		事業所	14	17	14	13	13
	会費額	1,061,500	1,078,000	1,050,000	1,031,500	1,062,500	
櫛引	一般会員（世帯）	1,845	1,842	1,845	1,832	1,811	
	賛助会員 個人	121	128	126	126	133	
	会費額	1,043,500	1,049,000	1,048,500	1,042,000	1,038,500	
朝日	一般会員（世帯）	1,167	1,162	1,173	1,135	1,123	
	賛助会員	個人	4	4	5	4	4
		事業所	25	28	28	24	25
	会費額	705,500	721,000	703,500	691,500	669,500	
温海	一般会員（世帯）	2,552	2,564	2,538	2,508	2,472	
	賛助会員	個人	40	39	41	39	40
		事業所	68	62	59	58	60
	会費額	1,613,000	1,581,000	1,552,000	1,540,000	1,525,000	
合計	一般会員（世帯）	37,839	38,018	37,650	37,375	37,237	
	賛助会員	個人	966	985	998	989	1,001
		事業所	632	628	595	581	566
	会費額	22,348,037	22,356,002	22,055,776	21,943,830	21,810,450	

<職員の状況>

(単位：人)

年 月	職員数	内 訳				
		正規	嘱託	契約 (常勤)	契約 (パート)	市派遣
H26.4	809	306	13	233	257	0
H27.4	832	306	11	223	292	0
H28.4	823	306	12	220	285	0
H29.4	823	305	13	222	283	0
H30.4	835	303	12	201	318	1
H30.5	811	305	14	194	297	1
H30.6	814	305	14	196	298	1
H30.7	816	305	14	200	296	1
H30.8	822	303	14	204	300	1
H30.9	823	301	13	208	300	1
H30.10	824	300	16	208	299	1
H30.11	825	300	16	205	303	1
H30.12	829	299	17	207	305	1
H31.1	829	299	16	209	304	1
H31.2	828	299	16	209	303	1
H31.3	829	299	16	208	305	1

<職員の給与の状況>

(31年3月31日現在)

項目 職位	平均年齢	平均 俸給月額	平均 勤続年数	人数	性別内訳	
					男	女
局長・次長・参事・課長級	57.3歳	326,967円	24.8年	6人	3人	3人
施設長・センター長級	54.4歳	296,924円	22.0年	21人	5人	16人
主査・係長級	51.5歳	255,440円	19.3年	30人	10人	20人
主任・副主任級	45.4歳	219,680円	15.2年	83人	21人	62人
主事級	36.6歳	199,247円	7.5年	159人	37人	122人
全 体	42.7歳	219,228円	11.5年	299人	76人	223人

<職員の資格取得状況>

(31年3月31日現在)

資 格	人数
社会福祉士	45人
精神保健福祉士	6人
保健師	4人
看護師（正看・准看）	69人
理学療法士	5人
作業療法士	1人
介護支援専門員	120人
介護福祉士	270人
介護職員初任者研修（旧ヘルパー2級含む）	310人

※重複あり

<職員採用の状況>

正規職員採用試験

		30年度	29年度	28年度	27年度	26年度
応募者数		35人	45人	71人	51人	93人
採用者数		18人	15人	24人	10人	17人
資 格	社会福祉士	0人	2人	3人	1人	1人
	介護福祉士	9人	7人	9人	3人	6人
	介護支援専門員	1人	2人	4人	1人	4人
	看護師（正・准）	2人	2人	1人	3人	0人
	その他	6人	2人	7人	2人	6人
退職者数		15人	11人	16人	24人	10人

<保有車両の状況>

(31年3月31日現在)

	バス	普通自動車	軽自動車	福祉車両	計
事務局	2台	4台	5台	2台	13台
福祉センター	2台	4台	1台	5台	12台
包括・支援センター	—	1台	24台	—	25台
通所（高齢・障がい）	1台	5台	5台	37台	48台
訪問入浴	—	1台	1台	—	2台
入居施設 （特養・グループホーム）	—	1台	—	5台	6台
訪問介護	—	—	23台	—	23台
児童・保育	3台	1台	1台	—	5台
合 計	8台	17台	60台	49台	134台

IV 事業運営

1. 地域福祉事業

(1) 総括

地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画 2015」の実施 3 年目となり、中間年として重点課題に沿って検証を行い、目指すべき方向性の確認をしました。特に、地域を取り巻く環境として、人口減少・少子高齢化、人間関係の希薄化、社会的孤立等があり、その中であって住民の複雑に絡み合う生活課題に対応するためには、個別相談支援を強化するとともに地域づくりを進める必要性を再確認し、コミュニティソーシャルワークの体制整備の協議を重ねました。

生活課題への対応の一つの手段として社会福祉法人による公益的な取組も位置付けられており、29 年度に引き続き、鶴岡地区特養連絡協議会³会員の 9 つの社会福祉法人との懇談会を開催し、連携を深めました。

また、地域で安心した生活を送るためには、身近な生活圏域での相談支援体制とともに住民主体の生活課題解決や支え合い活動が重要となります。そのために地域庁舎エリアでは「地域支え合いプラン」を実行し、鶴岡地区では「地域支え合いプラン」の必要性や策定方法の研修会、及び情報交換会を学区・地区社協等に向け開催しました。

さらに、鶴岡地域自立支援センターくらしスや若者サポートステーション⁴等から、社会参加の機会としてボランティアセンター事業を紹介されてくる若者への支援については、関係機関との連携をとるとともに、ボランティアセンターとしての役割を整理しました。

(2) 重点事業

① 地域福祉活動計画・地域支え合いプランの中間年検証の実施

地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画 2015」の中間年検証として、重点課題に沿って具体的取組内容及びこれまでの成果と課題を整理し、改めて目指すべき方向性の確認をしました。特に、地域課題への対応、住民主体の地域福祉活動を推進するためには相談支援体制の強化を図ることが重要であることを確認しました。

また、地域支え合いプランの中間検証として、各地域福祉委員会にて重点目標に沿ってこれまでの取組の進捗状況とその課題を整理し、今後の事業展開を確認しました。

³ 鶴岡地区特養連絡協議会：特別養護老人ホーム、地域包括支援センター等を運営している市内の 9 つの社会福祉法人（恵泉会、一幸会、思恩会、市社協、ふじの里、羽黒百寿会、櫛引福寿会、朝日ぶなの木会、あつみ福祉会）で組織し、定期的に情報交換等を行っている。

⁴ 若者サポートステーション：通学や働くことに悩みを抱えている 15 歳～39 歳までの若者に対して、専門的な相談支援、コミュニケーション訓練などにより自立的な社会参加のお手伝いを行っている公的支援機関で、山形県では、酒田市（庄内地域）、米沢市（置賜地域）、山形市（村山・最上地域）の 3 ヶ所に設置されている。

② コミュニティソーシャルワーク実践を充実するための体制整備

様々な生活課題に対して、相談支援機関、社会福祉法人、住民組織、住民個人等それぞれの立場を生かして解決できるように、調整する役割としてコミュニティソーシャルワークを実践できる体制整備の協議を関係機関と共に行いました。特に、社協の地域福祉課としてできることを協議し、積極的に個別の相談支援ができる体制をつくりました。

また、各地域包括支援センターの生活支援コーディネーターと協働し、いくつかの地域において住民主体の支え合い活動の支援をすることができました。

③ 鶴岡地域の学区・地区エリア「地域支え合いプラン」作成に向けた取組

「地域支え合いプラン」作成の意義や効果の共通認識を図るために鶴岡地域の21学区・地区社協等を対象にした研修会を開催し、参加者からは「地域支え合いプラン」作成について合意形成を図ることができました。

また、地域支え合いプランの目的を、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる、住民主体の地域づくりのための活動について示すものとし、「地域支え合いプラン」を21の学区・地区社協等それぞれが実施主体となり、32年度末までを目標に作成することとしました。内容は、それぞれの学区・地区社協等が取り組んでいる主な事業に加え、町内会・自治組織等で実施している独自の福祉活動を把握した上で、地域課題を整理し、その解決策を支え合いプランとすることにしました。

④ 社会的に孤立している若者などへの社会参加の場づくりの強化

ボランティアセンターで実施している「ちょボラ場⁵」に、社会参加のきっかけづくりの場として、くらしスや若者サポートステーション等で支援する若者等の参加者が年々増加しました。その中で、くらしスの支援により、ちょボラ場の参加をきっかけにして就労等につながる人も少しずつ増えており、ちょボラ場が「若者等の社会参加のための場」の一つとなりました。

一方、社会的に孤立している若者の就労については、より専門的な支援が必要であることから、関係機関と共にボランティアセンターの機能と役割を検討しました。

⑤ 社会福祉法人連携による公益的な取組の推進

29年度に引き続き、鶴岡地区特養連絡協議会の9つの社会福祉法人との連携を図りました。30年度は、各法人が行っている公益的な取組の聞き取り調査の取りまとめと、社協内の相談機関に寄せられた生活課題の事例を基に懇談会を開催しました。懇談会では、各法人ができる取組や法人が連携してできる取組、さらには、これらの取組を進めるにあたり社協へ期待することなどを話し合いました。

⁵ ちょボラ場：ボランティアセンターを会場に、誰でも気軽に集まって手作り封筒やお手拭きタオル作成など、“ちょっとしたボランティア”をする場として定期的開催している。

<地域福祉活動計画の主な実施状況>

<p>重点 事項 1</p>	<p>①広域コミュニティ組織単位の地域福祉推進体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区・地区社協とコミュニティ振興会・自治振興会の統合による組織再編が進む中、地域福祉の充実に向けた協議 ・藤島、羽黒、朝日、温海地域の各自治振興会等との連携事業の実施 ・櫛引地域（広域コミュニティ組織が組織されていない）の各集落単位の福祉部設置に向けた支援 <p>②おだがいさまネット活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡地域において、30年4月に新助成金交付要綱を制定し、「見守りネット活動」「支え合いネット活動」「福祉教育・学習活動」「ふくし座談会」等の活動を助成 ・見守りネット：三瀬地区、田川地区、栄地区、黄金地区 ・支え合いネット：第三学区 <p>③「(仮称)見守り座談会」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉活動支援事業において、住民主体による座談会を支援 ・地域ケアネットワーク会議等も活用して、見守りに関する話し合い実施 <p>④地域支え合いプランの作成・進行管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡地域で作成促進のための研修会や情報交換会の開催 ・鶴岡地域以外の5地域で、作成したプランに基づいた事業を推進 ・各地域福祉委員会で事業推進状況を確認、意見交換を実施
<p>重点 事項 2</p>	<p>①各相談支援窓口などが新たなニーズ把握と行政への働きかけを行いやすいシステムづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉課職員が、積極的に地域住民の生活課題等を把握できるような体制整備を検討 <p>②介護者や障がい児・者などの当事者や当事者団体への支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅介護者の交流事業を継続して開催 ・老人クラブ、身体障害者福祉協会、民生児童委員協議会、育成会等の団体へ助成支援 <p>③地域の課題に応じた新たなサービスや社会資源を開発する支援体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターが開催している地域ケア会議に地域ケア推進担当者として地域課題等について検討
<p>重点 事項 3</p>	<p>①ワンストップによる総合的な相談支援機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域庁舎エリアでは、藤島、羽黒、朝日、温海において各地域の庁舎内に福祉センターが配置されワンストップによる総合的な相談支援機能の強化 ・櫛引地域は、庁舎に隣接する老人福祉センターに福祉センターを配置 ・藤島地域は、市民福祉課及び地域包括支援センターと毎月連携会議開催

	<p>②生活自立支援センターの相談支援機能の拡充と「暮らしのセーフティネット」を構築するプロジェクトの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の業務からの課題抽出及び広く意見交換を行うことを目的に、市福祉課と共に「居住支援部会」「就労支援部会」を実施 ・生活困窮者就労支援として、市内企業、事業所等との関係構築 <p>③コミュニティソーシャルワーク実践のための体制整備・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の地域ケア推進体制促進による実践 ・地域支援とともに個別の生活課題への相談支援を行うために、地域福祉課の組織再編を検討
<p>重点事項 4</p>	<p>①住民主体の地域福祉活動を担う新たな人材の発掘と育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・櫛引地域で自治組織単位による福祉活動に関する事例報告及び研修会 ・朝日地域で担い手養成研修を実施 ・鶴岡地域で地域福祉推進研修会を実施 <p>②民生委員・児童委員、主任児童委員活動との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位民協定例会に地域ケア推進担当職員が出席 ・市民協連合会の三役会及び理事会に生活支援課職員が出席 <p>③市内の事業所との地域福祉活動の協働化の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所（企業）より就労困難者の就労体験の受入れ ・各種団体や飲食店経営者等より、子ども食堂やフードバンクの食材提供 <p>④社会福祉法人の地域貢献活動への支援と協働活動体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡地区特養連絡協議会 9 法人に、「地域における公益的な取組」聞き取り ・法人単体及び法人が連携して行える活動等についての懇談会を開催
<p>重点事項 5</p>	<p>①福祉施設やNPO法人などと連携した、人材育成とボランティア活動の支援機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設ボランティア受入れ担当者研修会・ボランティア養成講座 ・小学生対象に介護のお仕事体験事業・福祉体験「ユニバーサルデザイン」 <p>②地域のニーズに対応したボランティア活動の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン要約筆記講座及び点字入門講座等への開催協力 ・企業による除雪ボランティアの調整協力 ・新たな居場所づくりとボランティアの関わり等を学ぶ研修会開催 <p>③社会的に孤立している人などへの社会参加の場づくりの促進・拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ちょボラ場」を活用した社会参加のきっかけづくり ※鶴岡、藤島、羽黒、櫛引地域において開催 <p>④災害ボランティアセンター設置・運営に関する事業の充実と、企業、事業所、団体などとのネットワーク構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市総合防災訓練においてNPO団体、青年会議所等と連携した災害ボラセン設置訓練

	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアセンター連絡会とボランティアセンター運営委員会合同で災害ボランティアセンターに関する研修会を実施 ・青年会議所との連携（災害研修会、災害ボラセン運営支援の協定締結）
重点 事項 6	<p>①ボランティア体験学習プログラムの充実</p> <p>②学校における福祉学習の推進</p> <p>③社会人などに向けた福祉教育及びボランティア体験学習の推進</p> <p>※①～③を統合して実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内 37 の小・中学校に「福祉学習に関するアンケート」を実施 <p>④中学生・高校生などの社会参加と交流の機会や場の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校ボランティア部への出前講座を実施 ・鶴岡養護学校生徒へのボランティア講座を実施 ・ボランティア交流会で、高校生ボランティア活動紹介
重点 事項 7	<p>①「(仮称) つるおか権利擁護センター」の設置の検討など相談支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度利用促進基本計画の勉強会を実施 <p>②成年後見制度利用支援の拡充</p> <p>③虐待防止や虐待防止ネットワーク機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協内の高齢、障がい、児童部門より虐待防止に係る取組の聞き取り <p>④障がい者の差別解消への啓発の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者差別解消法の理解促進のための研修会の開催、及び啓発活動実施

(3) 各福祉センターの地域福祉事業総括

◇ 鶴岡福祉センター

21 の学区・地区の地域課題について整理し、その学区・地区の住民が主体となって取り組む「地域支え合いプラン」について、32 年度完成を目標に策定の促進をしました。策定の促進については、「地域支え合いプラン」の意義や効果の共通認識を図るための研修会を 2 回開催し、21 の学区・地区社協等の役員等関係者の合意形成を図ることができました。

学区・地区の地域福祉推進体制について、28 年度に 2 つ、30 年度に 2 つの学区・地区社協がコミュニティ関連団体と再編統合しました。さらに、30 年度中に 2 つの学区・地区が再編統合を検討する中で、これまでの再編統合の経過やその効果等の情報提供を行い、それぞれの学区・地区の状況に合わせ地域福祉推進ができるよう支援しました。

また、学区・地区の地域福祉推進への支援強化を図るため、地域福祉課を地域づくりを基本とした 2 つの係（個別相談援助をする係と各種事業を企画運営する係）に編成することを検討するとともに、個別相談援助が効果的にできる組織体制を検討しました。

◇ 藤島福祉センター

「ふじしま地域支え合いプラン」の中間年検証については、地域福祉委員会においてこれまでの取組の評価及び検証を行うとともに今後の事業展開について協議を行いました。

4 つの重点目標に基づいた藤島地域の特色ある地域福祉活動として、「農福連携プロジェクト」に庄内農業高等学校と一緒に取り組みました。3 年目となる 30 年度は、参加者を地域の高齢者等だけでなく福祉施設やくらしの利用者などにも拡大して実施し、多くの方から参加してもらいました。

福祉相談支援窓口については、藤島庁舎市民福祉課及び地域包括支援センターふじしまと当センターの三者が毎月定期的に開催している「ふじしまつながりメンバーズ会議⁶」及び地域ケアふじしま連携会議を通して連携を密にし、地域住民の支援の充実に努めました。

小学生を対象としたサマーチャレンジについては、ボランティア活動を通じて福祉の心を醸成するための事業として、バリアフリーをテーマにした内容で開催しました。直接観光施設に出向いてのバリアフリー探しや東北公益文科大学で授業を受け、「誰もが暮らしやすい環境」について学習しました。参加者は例年より多い 15 人の参加となりました。

ちょボラ場については毎月 1 回開催、ケロちゃんタオルづくりなどを通して会話を楽しむなど地域の集いの場となりました。

⁶ ふじしまつながりメンバーズ会議：藤島福祉センター、藤島庁舎市民福祉課及び地域包括支援センターふじしまの職員が藤島の地域福祉の取組について話し合う、月に一度開催している会議。

<地域福祉委員会開催状況>

	内 容
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 30 年度藤島福祉センターの事業概要について ・ ふじしま地域支え合いプランの中間年検証等について
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 30 年度藤島福祉センター事業の中間総括について ・ ふじしま地域支え合いプランの中間年検証について

<広報おだがいさま地域版発行状況>

- ・ 第 39 号 (4 月 1 日発行) ・ 第 40 号 (7 月 1 日発行) ・ 第 41 号 (10 月 1 日発行)
- ・ 第 42 号 (3 月 1 日発行)

◇ 羽黒福祉センター

地域支え合いプランの中間年検証として地域福祉委員会において取りまとめ、残り期間の活動の方向性を確認しました。また、生活支援コーディネーターとの連携については、これまで福祉センターが果たしてきた地域福祉推進活動を生かしながら情報共有や活動の連携を図りました。

相談支援ワンストップサービスにおける相談対応については、行政主管課と地域包括支援センターとの定期的な会議に参加、個別ケース対応のため、鶴岡地域生活自立支援センターからレスをはじめ民生委員・児童委員や学校等との情報交換、連携を図りました。

こころの健康づくり事業では、11 月 30 日に手向地区地域活動センターにて講演会を実施し、羽黒地域以外の方や若い方を含め 55 人の参加を得ました。併せて 3 回目のこころの健康づくり応援団会議を実施しました。また、29 年度同様に集落への出前講座や、黄金地区において活動紹介を実施するなど事業の啓発活動に努めました。

<地域福祉委員会開催状況>

	内 容
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 30 年度鶴岡市社会福祉協議会の概要、羽黒福祉センター事業経過説明 ・ 羽黒おもいやりプラン中間検証についての説明と意見交換
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 羽黒おもいやりプラン検証作業 ・ こころの健康づくり講演会のお知らせ

<広報おだがいさま地域版発行状況>

- ・ 第 32 号 (7 月 1 日発行) ・ 第 33 号 (3 月 1 日発行)

◇ 櫛引福祉センター

「くしびき ささえ愛プラン」の具体的実行策として、地区住民が支え合う体制（福祉部・検討会等）を設置することとして、これまで 3 地区が取り組み、さらに準備を進めている地区があります。福祉マップの作成や認知症家族への支援・除雪などを行い、ささえ愛の体制整備が住みやすい地域づくりにつながりました。

誰でも通い集うことができる居場所として、生活支援コーディネーターと連携し、鶴岡市介護予防・日常生活支援総合事業における住民主体型通所型サービスBの立ち上げ支援を行うとともに、社協の独自事業である生涯現役推進事業「なりげんき塾」終了後の住民主体によるサロンの立ち上げ支援を行いました。

櫛引地域の介護保険事業所との連携により、「ふれあい福祉講座」「施設見学会」「カーブミラー掃除」「文化祭への出品」など、他事業所と一緒に地域貢献に取り組むことができました。

福祉学習では、櫛引遺族会と協力し、新たに中学2年生に対し「平和学習」について行うことができました。

<地域福祉委員会開催状況>

	内 容
第1回	・30年度櫛引福祉センターの事業概要 ・くしびきささえ愛プランの経過報告とグループ討議
第2回	・30年度櫛引福祉センターの事業報告 ・くしびきささえ愛プランの進捗状況

<広報おだがいさま地域版発行状況>

・第41号(8月1日発行)・臨時号(5月1日発行)・第42号(2月1日発行)

◇ 朝日福祉センター

「朝日地域支え合いプラン」の中間年検証として、地域の中でいつまでも元気に暮らせるようサロンづくりや介護予防体操の推進に努めました。さらに、地域のつながりづくりにより活性化を図ることを目的とした「地域活性化事業」は、各コミュニティセンターの協力により38自治会のうち31自治会が事業を実施し一定の成果を得ました。

28年3月から開始したワンストップによる総合的な相談支援機能の強化では、朝日庁舎市民福祉課、地域包括支援センターあさひ、さらに生活支援コーディネーターと連携し、地域の様々な個別課題に対して迅速に対応しました。また、認知症サポーター養成講座(小中学校、コミセン)の実施、認知症カフェの開設周知、各自治会単位でのサロン普及のためにサロン研修会を開催しました。

さらに、広域コミュニティ組織(3つの自治振興会)への事業協力や、コミセンを窓口にして朝日地域の最重要課題である豪雪に対して企業従業員からなる除雪ボランティアが活動したことにより、地域課題の解決に向けた一助となりました。

<地域福祉委員会開催状況>

	内 容
第1回	・30年度朝日福祉センターの事業計画・朝日地域遊具設置 ・地域活性化事業

第2回	・福祉基金の現状と方向、遊具設置助成、地域支えあいプラン中間報告
第3回	・遊具設置について・31年度地域活性化事業 ・30年度朝日福祉センターの事業経過報告

・朝日地域福祉基金活用検討委員会 2回開催

<広報おだがいさま地域版発行状況>

・第7号（10月1日発行）・第8号（3月1日発行）

◇ 温海福祉センター

相談支援のワンストップ機能を生かし多様な課題を抱えたケースに対して支援ができるよう、定期的な地域ケア推進担当者会議や必要に応じ随時会議を開催し、経過確認や情報共有、支援調整等、関係機関との連携強化を図りました。

これまで温海地域の介護予防を支えてきたミニデイサービス事業が見直しされたことから、語らい広場⁷や気軽な住民同士の交流と相談の場を目的とした「ぶらりカフェ⁸」を、温海地域内の大型スーパーなど地域に出向いて介護予防に資する事業を実施し、福祉センターの機能周知とともに地域の実態把握に努めました。また、温海デイサービスセンター愛寿園との協働により、送迎車両の空き時間を利用して、一人暮らしの65歳以上の高齢者を対象（地域限定）とした買い物支援ツアーを12月と3月の2回実施、25人の参加があり、買い物支援にとどまらず参加者同士の交流の場となりました。

<地域福祉委員会開催状況>

	内 容
第1回	・30年度温海福祉センター事業計画について ・地域支えあいプランの取組について
第2回	・30年度 地域支えあいプランの中間評価について ・グループワーク「誰もが住みやすい地域づくりを目指して～買い物編～」

<広報おだがいさま地域版発行状況>

・第21号（7月1日発行）・第22号（3月1日発行）

⁷ 語らい広場：民生委員・児童委員の協力をいただきながら、介護予防と交流を目的に70歳以上の独居、二人暮らし高齢者を対象に行う、温海福祉センターの独自事業。

⁸ ぶらりカフェ：高齢者をはじめ、誰もが気軽に立ち寄れる、地域に開かれた場所として、金融機関と温海庁舎の間の通路に定期的に開催するほか、出前型として集落や大型スーパー内に開設し、介護相談等を行う。

(4) 地域福祉事業

◇ 地域福祉メニュー事業

福祉コミュニティづくり事業

鶴岡地域の地域福祉推進拠点である学区・地区社協等に対し運営費を助成するとともに、学区・地区社協連絡委員会事務局として研修会や会議を開催しました。30年度は地域課題の解決や地域活性化のための住民主体活動を示す地域支え合いプランの意義、効果について研修し、策定に関する共通認識と策定の促進を図りました。

① 鶴岡市学区・地区社会福祉協議会連絡委員会各種会議・研修会

会議・研修名	期 日	主な内容	参加者
幹事会	6月14日	・連絡委員会（7/26）への提案事項について ・鶴岡地域安心カード設置事業状況について	14人
	10月4日	・事業の実施に関する協議 ・助成金交付状況、生活支援コーディネーターについて	11人
連絡委員会	7月26日	・29年度事業報告並びに収支決算 ・30年度事業計画（案）並びに収支予算（案） ・共同募金配分事業、学区・地区社協活動概要 他	34人
役員・コーディネーター等研修会	7月26日	・講演「地域支え合いプラン策定の意義」 法政大学現代福祉学部教授 日本地域福祉研究所 副理事長 宮城孝氏 ・学区・地区単位の「地域支え合いプラン」策定について	61人
	11月12日	・情報提供 鶴岡地域生活自立支援センターくらしステーション 主任相談支援員 堅岡真由美 ・講演「身近にある精神疾患への理解」 医療法人山容会 山容病院 院長 小林和人氏	79人
	2月26日	・講演「地域支え合いプラン」策定のポイント 東北公益文科大学 教授 武田真理子氏 ・情報交換会（テーマ別） ①地域支え合いプランの取り組みについて ②これからの会食交流会について ③地域で困りごとを抱えている方への支援について ・各グループの発表・まとめ ※鶴岡市共催事業（地域福祉リーダー養成事業）	54人

② 学区・地区社会福祉協議会への活動支援

地域福祉推進基礎組織として重要な役割を担っている学区・地区社会福祉協議会に対する地域福祉課職員の地区担当制により、関係組織との連携や情報提供等による活動支援に努めました。

<各学区・地区社協の特徴的な事業>

社 協 名	特徴的な事業
第一学区社会福祉協議会	住み良い街づくり推進事業
第二学区社会福祉協議会	認知症・介護者支援事業
第三学区社会福祉協議会	おだがいさま支え合いネット
第四学区社会福祉協議会	鶴岡第四中学校生徒との除雪ボランティア活動
第五学区社会福祉協議会	福祉教育推進事業
第六学区コミュニティネットワーク	認知症ケア事業（警察・金融機関との情報交換会）
斎地区社会福祉協議会	ほっとカフェ（認知症カフェ）
黄金地区社会福祉協議会	こがね地区見守りネットワーク
湯田川地区社会福祉協議会	安心袋の設置
大泉地区社会福祉協議会	大泉地区役員地域福祉実態調査
京田地区社会福祉協議会	安心カード普及・推進
栄地区社会福祉協議会	栄地区「おらほのかるた」事業
田川地区社会福祉協議会	田川地区おだがいさま見守りネット
上郷地区社会福祉協議会	上郷地区高齢者実態調査
三瀬地区福祉のまちづくり協議会	三瀬地区おだがいさま見守りネット
小堅地区社会福祉協議会	緊急時安否確認（鍵預かり）事業
由良社会福祉協議会	地域連絡用無線と安心カードによる緊急時対応システム
加茂地区社会福祉協議会	ふれあいサロン活動
湯野浜地区社会福祉協議会	湯野浜まがしいり事業
大山社会福祉協議会	大山地区福祉協力員「活動マニュアル」作成事業
西郷地区社会福祉協議会	西郷安心カードの設置推進

おだがいさまのまちづくり事業

誰もが安心して住み慣れた地域で暮らし続けていくための取組として、地域のサロン活動やボランティア活動への支援、さらに、地域福祉推進組織と地域関係団体等とのネットワークづくりを進め、住民主体による見守り・支え合い活動の活性化を図りました。また、チャイルドシートの貸出しや青色駐車場の整備等により、子育て家庭や障がい者等の社会参加に対する支援に取り組みました。

① おだがいさまのまちづくり事業助成金交付（鶴岡地域）

学区・地区社協等において、新たに取り組む住民主体の見守りのネットワーク構築や生活支援サービス、福祉教育の推進等の活動、また、ふくし座談会の実施に対し助成支援し地域福祉活動の充実を図りました。

<活動の実施状況>

団体名	活動内容
第二学区社会福祉協議会	認知症・介護者支援事業
第三学区社会福祉協議会	第三学区おだがいさま支え合いネット活動
第五学区社会福祉協議会	五学区第3次地域福祉活動計画策定事業
第六学区コミュニティネットワーク	高齢者を支える地域づくり（認知症カフェ事業）
栄地区社会福祉協議会	栄地区「おらほのかるた」作成事業
上郷地区社会福祉協議会	すみやすい上郷!地域づくり講座
大山社会福祉協議会	大山地区福祉協力員「活動マニュアル」追加作成事業

※29年度 6事業

<ふくし座談会の実施> ・30年度 21件 ・29年度 31件

② お茶のみサロン活動助成金交付（鶴岡地域）

鶴岡地域において町内会、自治会等一定の区域を範囲として地域住民が主体となって取り組むサロン活動に対し助成金を交付し、地域の見守り活動への支援を図りました。

<助成件数> ・30年度 122件 ・29年度 129件

③ 福祉活動支援事業

町内会、集落等の自治組織、住民団体等が行う「サロン活動」や「住民福祉座談会」など、福祉課題の把握や地域ニーズに対応した小地域活動を支援し、住民主体の地域福祉活動の充実を図りました。

<実施状況>

（単位：箇所数）

福祉センター	サロン活動		住民福祉座談会等		ボランティア活動		人材育成		福祉研修・講座		地域福祉サービス等	
	H30	H29	H30	H29	H30	H29	H30	H29	H30	H29	H30	H29
藤島	21	14	1	1	1	1	—	—	2	2	—	—
羽黒	4	5	1	1	1	1	—	—	2	3	—	4
櫛引	5	3	—	—	2	2	—	—	1	1	—	2
朝日	9	8	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—
温海	1	—	4	4	—	—	—	—	—	—	—	—

④ おだがいさまネット活動推進事業

地域内の地域福祉推進組織や、関係団体、協力事業所等と見守りの取組について共通認識を図るネットワークの構築や、日常生活で困りごとを抱えている人への生活支援への取組として「おだがいさまネット活動」を推進し、住民参加型活動の仕組みづくりと啓発に努めました。また、一人暮らし高齢者等の緊急時に備える安心カードの設置を消防本部との連携により支援し、住民の方々の安心した暮らしと地域の福祉活動の環境づくりを図りました。

<実施状況>

福祉センター	事業内容
鶴岡	<p>①おだがいさまネット活動推進事業</p> <p>「見守りネット活動」：見守りのネットワークを構築し啓発活動に取り組むことで、住民の方々の意識と共に地域力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田川地区おだがいさま見守りネット 27年度～ 田川地区 ・三瀬地区おだがいさま見守りネット 27年度～ 三瀬地区 ・さかえ地区支え愛見守りネット 28年度～ 栄地区 ・こがね地区見守りネットワーク 29年度～ 黄金地区 <p>「支え合いネット活動」：日常生活で困りごとを抱えている方に対して、課題解決のための生活支援の仕組みをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三学区おだがいさま支え合いネット 27年度～ 第三学区 <p>②安心カード設置活動</p> <p>学区・地区社協等が実施主体となり 21 地区 4,456 世帯に設置、うち 19 地区 3,992 世帯分の設置者名簿を消防本部に提出。また、駆け付けた救急隊員の、より迅速な対応の補助的機能を目的とした「安心カードステッカー」設置のため、希望する学区・地区社協へ配布。</p>
藤島	<p>①ふじしま安心カードの設置：設置数 176 世帯</p> <p>町内会、民生委員・児童委員及び地域包括支援センターふじしまの協力により実施。</p>
羽黒	<p>①緊急連絡カードの設置：設置数 404 世帯 615 人（一人暮らし高齢者、高齢者世帯等）民生委員・児童委員の協力により実施。</p>
櫛引	<p>①安心カードの情報共有数：世帯数 634 世帯 971 人</p>
朝日	<p>①近所の支え合い 朝日あんしん見守り事業</p> <p>上名川自治会：対象者 4 人、見守り隊：2 人 訪問活動 209 回</p> <p>②黄色い旗運動 上田沢自治会：54 世帯（全世帯）</p> <p>③安心カードの設置：設置数 260 世帯 369 人 38 自治会中 31 自治会が民生委員・児童委員の協力により実施。</p>

温 海	①福祉連絡カードの設置 一人暮らし高齢者 400 世帯、二人暮らし高齢者 381 世帯、 高齢者のみ世帯 70 世帯、高齢者以外(障がい者等)8 世帯
-----	---

⑤ 人にやさしいまちづくり事業

障がい児・者や子育て世帯等が地域の中で安心して共に暮らしていく環境づくりや啓発的的事业など、地域ニーズに対応した各種の活動・支援を行いました。

【藤島福祉センター】

子育て世帯への支援を目的としたチャイルドシートの貸出しや、地域活動を支援するための遊具等の貸出しを行いました。

活動内容	備考
チャイルドシート貸出し (16 台)	35 件
輪投げ等遊具貸出し (6 セット)	69 件
擬似体験セット貸出し (3 セット)	4 件
車イス貸出し (1 台整備)	2 件

【羽黒福祉センター】

高齢者・障がい者・子育て家庭等が、地域の中で安心して暮らすことができる環境づくりや生活支援のための事業を実施しました。また、自殺予防対策として、住民組織の代表や羽黒庁舎との連携により「こころの健康づくり推進事業」に取り組み、「羽黒地域こころの健康づくり応援団」の活動支援や講演会を開催しました。

活動内容	備考
障がい者用駐車場(青色駐車場)の整備	3 ヲ所
チャイルドシートの貸出し(49 台)	19 件
こころの健康づくり講演会の開催	55 人
こころの健康づくり出前講座	4 回

【櫛引福祉センター】

30 年度に新規の子育てサポーターが 1 人加わり、子育てサポーター 16 人が子育て支援センターや各保育園において活動し、また、手作りのおもちゃを保育園へ寄贈しました。子育てサポーターを対象とした研修では、櫛引地域内の保育園にて「乳幼児との関わり」や各保育園の特色ある保育を学び、給食を一緒に食べて、食事の様子や食事内容も見えていただくことができ、食育についても学ぶことができました。また、防災講座や心肺蘇生法訓練・AED 講習を実施し、サポーターとしての質の向上に努めました。

活動内容	備考
子育てサポーター研修	8回
チャイルドシート貸出し（110台）	279件
車いすの貸出（10台）	12件
遊具の貸出	10件

【朝日福祉センター】

障がいの有無に関わらず、音楽を通じて交流することを目的に、朝日手をつなぐ育成会と共に朝日有志の会で主催する「第5回 愛のふれあいコンサート」開催への支援や、老人クラブ、自治会等の活動支援を行いました。また、世代間交流事業に遊具の貸出しを引き続き実施しました。

活動内容	備考
愛のふれあいコンサート（会場：ふっくら）	100人
チャイルドシート貸出し（15台）	17件
「聞こえませんカード」周知（29年度～）	事業所21件
疑似体験セット・輪投げ等の遊具貸出し	40件

【温海福祉センター】

子育て世帯への支援としてチャイルドシートの貸出しや、一時的に車いすが必要となった高齢者や障がいのある方などに車椅子の貸出しを行い、地域の中で安全・安心して暮らしていく環境づくりに努めました

また、温海温泉バラ祭り開催期間中に、地元ボランティア（まちづくりチームYUKA I）がバラ園までのスロープ設置と来場者の介助協力を行い、車椅子で移動する方や階段歩行が難しい福祉施設利用者がバラ園の鑑賞を楽しむことができる日を設けました。

活動内容	備考
チャイルドシートの貸出し（9台）	20件
車いすの貸し出し（4台）	16件
バラ園入口スロープ整備・移動介助	延べ36人利用

⑥ 地域福祉担い手発掘・養成事業

30年度は、櫛引・朝日地域において自治組織単位による福祉活動に関する活動の促進、担い手の養成を目的に研修会を実施しました。また、鶴岡地域では地区社協役員等を対象に鶴岡市と共催で地域福祉リーダー養成研修を実施し、地域支え合いプランの取組に合わせた、地域組織との協働による視点での活動展開について研修しました。

<研修の概要>

年度	対象地域	開催月	主な内容	参加人数
28	羽黒	2月	テーマ「羽黒地域の展望について～5年後 10年後 もしあわせに暮らすために～」	23人
29	朝日	11月	テーマ「朝日の夢をかだろう会～心通う地域づくり を目指して・・・住民ひとりひとりが地域の担い手！～」 内 容 講演、パネルディスカッション 講 師 東北公益文科大学教授 武田真理子氏 対 象 地域福祉委員、自治会役員、自治振興会関係者、民生委員・児童委員、かがやきクラブ等	77人
29	櫛引	2月	テーマ「支え合いの地域づくり～地区に組織をつくらう」 内 容 講演、グループワーク 講 師 東北公益文科大学准教授 鎌田剛氏 対 象 地域福祉委員、区長会役員、民生委員・児童委員等	20人
30	櫛引	1月	テーマ「地域ささえ愛研修会」 内 容 講演、実践報告 講 師 柴田社会福祉事務所 柴田邦昭氏 実践報告 丸岡地区「ささえ愛検討会」 区長 小林幸一氏 対 象 地域福祉委員、区長、民生児童委員	35人
30	朝日	2月	テーマ「仲間づくりサロン研修会」 内 容 朝日サロンの紹介・サロンの立ち上げ サロン体験 対 象 地域住民（サロン参加者、民生委員）	18人
30	鶴岡	2月	学区・地区社協役員・コーディネーター等研修会 ※内容は、鶴岡市学区・地区社協連絡委員会各種会議・研修会事業報告へ掲載。	54人

⑦ 福祉関係団体等助成事業

福祉関係団体等への運営費助成及び活動助成金を交付し活動支援を図りました。

<福祉団体等への活動助成の状況>

地 域	28 年度		29 年度		30 年度	
	団体数	助成金額 (円)	団体数	助成金額 (円)	団体数	助成金額 (円)
鶴 岡	10	553,000	10	553,000	11	703,000
藤 島	9	365,000	9	365,000	9	365,000
羽 黒	4	210,000	4	210,000	5	240,000
櫛 引	3	65,000	3	103,000	3	103,000
朝 日	4	286,000	4	278,000	4	278,000
温 海	4	325,000	4	325,000	5	355,000

地 域	助 成 団 体
鶴 岡	老人クラブ、身障協会、民生児童委員協議会、手をつなぐ親の会、母子会、遺族会、婦人会、保護司会、民間保育園協議会、ボランティア連絡協議会
藤 島	老人クラブ、身障協会、民生児童委員協議会、介護予防事業実施団体、児童健全育成町民会議(5 地区)
羽 黒	老人クラブ、身障協会、手をつなぐ育成会、赤十字奉仕団、しゃべってほっとの会
櫛 引	老人クラブ、身障協会、婦人会
朝 日	老人クラブ、身障協会、民生児童委員協議会、手をつなぐ育成会
温 海	老人クラブ、身障協会、民生児童委員協議会、手をつなぐ育成会 まちづくりチームYUKA I

⑧ 仲間づくり交流事業

町内会、集落等で開催されるお茶のみサロン等への活動支援や高齢者等を対象とした介護予防や健康増進を目的とした講座等を、地域の各種関係団体、専門機関との連携により実施し、一人暮らし高齢者等の閉じこもり防止や生きがいをづくりに取り組みました。

【藤島福祉センター】

藤島庁舎市民福祉課及び地域包括支援センターふじしまとの三者の連携により、町内会で開催されるサロン活動や老人クラブ活動に出向き、健康講話や認知症理解のための支援を行いました。

【羽黒福祉センター】

集落等が実施するお茶のみサロン活動等に対して、羽黒庁舎市民福祉課や地域包括支援センターかみじ荘と連携し、脳トレーニングや認知症予防等、また、地域での「百歳体操」や「なりげんき塾（3カ所）」への開催支援を含め年15回実施し、介護予防や健康増進を図るための支援をしました。さらに、自由参加型サロン「ハッピー広場」への支援を行い、200人以上の参加がありました。また、30年度は新たにサロン1カ所が立ち上がり、支援を行いました。

【櫛引福祉センター】

ささえ愛プランの活動を推進する中で、お茶のみサロン等が行われていない地区に向き、地域と相談しながらサロンの立ち上げ支援を行い、また、楽しく健康づくりができるように「ふれあい福祉講座」などを活用し2地区で開設することができました。

【朝日福祉センター】

地域ケア推進体制により、朝日庁舎市民福祉課、地域包括支援センターあさひと連携してサロン活動の立ち上げ支援を行いました。30年度は通年で実施されたサロンが9カ所あり、期間開催も含めると計49回開催され、延べ594人が参加しました。また、冬期間の運動不足解消及び介護予防、仲間づくりとして「なりげんき塾」を2講座行いました。4月から7月まで計10回をふっくらで開催、その後は百歳体操に移行しました。1月から3月までの10回は朝日南部コミュニティセンターで開催し、その後、継続しての活動に移行する支援を行いました。

【温海福祉センター】

独自の事業では、民生児童委員からの協力により、一人暮らし高齢者と高齢者のみ世帯の方を対象にした交流事業「語らい広場」を3回（6月：外出事業、9月：講話と制作、12月：講話と交流会）実施し、延べ178人の参加がありました。その他、各集落で実施しているミニデイや研修会（30年度参加実績11回）などで、企画協力や脳トレクイズ・体操などを行いました。

会食・配食・交流事業

在宅で生活している、一人暮らし高齢者等の閉じこもり防止や栄養管理、社会参加を進めることを目的に、コミュニティセンター、公民館単位で学区・地区社協、各福祉センターが実施する食事を伴う交流事業に対し支援を行いました。

【鶴岡福祉センター】

学区・地区社協20カ所で主に月に1回程度実施し、会食交流・配食事業に対する助成金の交付などの支援を行い、参加者の取りまとめや配食する際の手伝い、送迎など、関係地域組織（民生児童委員・福祉協力員）や調理ボランティアの協力を得ながら実施しました。

【藤島福祉センター】

70歳以上の一人暮らし高齢者を対象に、保健師による健康相談や軽スポーツを楽しみながら、ふれあい食センターの食事を提供する会食会や郊外会食などの「ふれあい給食交流会」を民生児童委員からの協力により3回実施しました。

【温海福祉センター】

8月を除く毎月20日、ボランティア（あたたかグループ）が調理した弁当に地元の小学生が絵やメッセージを書いた掛け紙をかけた「あたたか弁当」を、一人暮らし高齢者等へ届けました。直接お届けすることで安否確認や会話につながり、大変好評を得て利用者が増えました。また、協力いただいている方々同士、鼠ヶ関小学校で交流会を行いました。

<会食交流会の実施状況>

年度	鶴岡		藤島 (ふれあい給食)		温海 (あたたか弁当)	
	回数(回)	人数(人)	回数(回)	人数(人)	回数(回)	人数(人)
28	183	5,367	4	101	11	1,613
29	186	5,357	3	46	11	1,589
30	180	4,918	3	41	11	1,792

※鶴岡地域の参加人数は配食人数も含む。

食の自立支援事業(市受託事業)

地域住民によるボランティア活動により、一人暮らし高齢者等への弁当配食を行い、栄養バランスの取れた食事を定期的に提供することにより高齢者の健康を保持するとともに、安否確認や話し相手など地域の支え合い活動の支援を図りました。

<配食の実施状況>

年度	鶴岡		朝日	
	利用者数 (人)	配食数 (食)	利用者数 (人)	配食数 (食)
28	25	3,106	5	129
29	18	2,659	3	114
30	12	1,901	3	117

福祉有償移送サービス事業

バスやタクシーなどの公共交通機関を利用することが難しい高齢の方や障がいのある方を、通院や買い物などに出かけたいときに福祉車両（おおぞら号・ほほえみ号）で送迎する会員制の移動支援事業を行いました。

運転者を対象とした安全運転講習を計3回実施し、安全・安心な運行や利用会員の視点

に立った運転方法などの基礎的な知識・技術を確認する機会をつくりました。また、この事業の維持継続を目的に、利用料金改定の検討を行いました。

<事業実績>

年度	鶴岡		朝日		温海		合計	
	登録数 (人)	運行回数 (回)	登録数 (人)	運行回数 (回)	登録数 (人)	運行回数 (回)	登録数 (人)	運行回数 (回)
28	218	4,101	28	287	106	363	352	4,751
29	176	3,921	28	216	100	294	355	4,431
30	169	3,663	33	260	91	256	293	4,179

※ 藤島・羽黒・櫛引地域在住の方は鶴岡福祉センターで対応

福祉ボランティアまちづくり事業

(1) 鶴岡市ボランティアセンター運営

① ボランティアセンター運営委員会の開催

- ・ 第1回 平成30年11月26日(月)
 - 内容 1. 平成30年度事業推進について
 - 2. 地域福祉活動計画進捗状況について
 - 3. 今後のボランティアセンターについて
- ・ 第2回 平成31年3月12日(火)
 - 内容 1. 平成30年度事業の振り返り
 - 2. 平成31年度事業推進に向けた意見交換
 - 3. 地域福祉活動計画中間年検証について

② ボランティアセンターの状況

<ボランティアセンター来館者数>

年度	合計	来館の主な目的
28	1,016人	ボランティア保険相談・申請、ボランティア依頼・登録等の相談、ボラセン事業手伝い、情報提供等
29	961人	
30	1,053人	

<ボランティア登録状況>

年度	個人	団体
28	80人	74団体
29	67人	66団体
30	113人	65団体

<ボランティアセンター依頼・相談件数>

(単位：件)

年度	高齢	障がい	子育て	環境	地域行事	イベント	活動希望	その他	合計
28	35	15	13	4	11	6	32	16	132
29	23	10	18	1	7	16	20	16	111
30	26	16	11	1	9	5	15	9	92

(2) ボランティア活動推進

① ボランティア団体助成事業

ボランティア団体の活動を支援し地域福祉力向上を図るため、13 団体へ助成金（計 255,000 円）を交付しました。

<交付団体数>

(単位：件)

年度	芸能	読み聞かせ	昔語り	学生	高齢者支援	障がい者支援	子ども子育て	避難者支援	その他	計
28	8	0	1	2	2	2	0	1	3	19
29	5	1	0	1	1	4	2	0	1	15
30	5	1	1	2	0	2	2	0	0	13

<交付団体名>

羽黒地域中学生・高校生ボランティア、櫛引地域高校生ボランティアサークル NO-SIDE、あつみ昔話の会、庄内なつメロ会、要約筆記おひさま、唄と踊りの三つ葉会、新生カラオケ愛好会、花咲や、鶴岡玉琴会、子どもたちの学びを支援する会、パソコン要約筆記はなまる、特定非営利活動法人日本国末端技術研究所、サロンおはなしの部屋

② ボランティア研修会・養成講座の開催

ボランティア活動をしている方々や各種関係団体職員等を対象に、地域ニーズに応じたボランティア活動に関する研修会や参加者同士の情報交換会を、市ボランティア連絡協議会との連携により開催しました。

<実施状況>

年度	開催月	場所	内容	参加人数
28	11月	にこ♡ふる	ボランティア受入れ施設・団体担当者研修会（基礎編・スキルアップ編）	33人
28	3月	にこ♡ふる	ボランティア活動の基礎知識学習 ボランティア体験者講演	11人
29	2月	にこ♡ふる	ボランティア受入れ施設・団体担当者研修会	21人
29	2月	はちもり	ボランティア活動の基礎知識学習 施設紹介	15人

30	2月	にこ♡ふる	ボランティア研修会(わくわく居場所づくり研修会)	81人
----	----	-------	--------------------------	-----

③ ボランティア交流会の開催

市内の高校生等ボランティア活動をしている方々を対象に交流会を開催し、ボランティアの入門講座として「災害対応ゲーム・クロスロード」の体験や高校生ボランティア等の活動紹介を通じた参加者同士のネットワークづくりを、市ボランティア連絡協議会との連携により開催しました。

<実施状況>

年度	開催月	場所	内容	参加人数
28	2月	にこ♡ふる	活動発表(6団体)、グループワーク	32人
29	2月	にこ♡ふる	活動発表(6団体)、研修、体験、交流	62人
30	2月	にこ♡ふる	活動発表(5団体)、研修、体験、交流	57人

④ ボランティアセンターだよりの発行

ボランティア募集や活動紹介など、ボランティアの情報発信として毎月「ボランティアセンターだより」を発行しました。(NO. 247～NO. 258)

⑤ 災害ボランティアセンター設置訓練

鶴岡市総合防災訓練時に合わせて、平成27年度に作成したマニュアルを基にした災害ボランティアセンター設置訓練を、特定非営利活動法人鶴岡災害ボランティアネットワーク、鶴岡青年会議所会員、大学生、開催地住民等からの協力を得て実施しました。

<実施状況>

年度	開催月	場所	参加人数
28	10月	三瀬地区	22人
29	9月	第一学区	49人
30	9月	羽黒泉地区	48人

<災害への支援>

30年8月に発生した戸沢村豪雨災害にあたり、災害ボランティア活動支援及び、戸沢村災害ボランティアセンター設置・運営に対し職員を派遣しました。

- ・戸沢村災害ボランティアセンタースタッフとして地域福祉課職員等を派遣
8/10～8/23 14日間 職員延べ23人
- ・ボランティアバスの運行
8/11～8/12 ボランティア活動を希望する市民を支援 延べ17人

⑥ 災害ボランティアセンター連絡会

本市で災害が発生した際に災害ボランティアセンターを運営するにあたり、関係機関との日頃からの連携や役割等について確認する連絡会を開催しました。特に 30 年度は、戸沢村水害の支援に参加したこと等を振り返り、今後の取組について話し合いました。

- ・日 時 31 年 3 月 22 日（金）
- ・場 所 鶴岡市総合保健福祉センター
- ・アドバイザー ウェザーハート災害福祉事務所 代表 千川原公彦氏
- ・参加者 11 人
- ・内 容 (1)30 年度事業について
(2)戸沢村災害ボラセン参加から学ぶ、鶴岡市で想定される課題等

⑦ 防災セミナー「最近の全国各地の災害事例から学ぶ」

大災害に対する地域ぐるみの備えを推進するための研修会を N P O 法人鶴岡災害ボランティアネットワークの協力により開催し、地域防災体制整備の一助としました。

- ・月 日 平成 31 年 3 月 22 日（金）
- ・場 所 鶴岡市勤労者会館
- ・参加者 24 人
- ・内 容 講話・ワーク
テーマ 「最近の各地の災害事例から学ぶ～地図を使った災害演習～」
講 師 ウェザーハート災害福祉事務所 代表 千川原公彦 氏

⑧ 鶴岡青年会議所との「災害ボランティアセンター運営等に関する協定」の締結

鶴岡市で災害が発生し災害ボランティアセンターを設置したときに、センターのスタッフとして、また、資機材の提供等への協力を目的に、鶴岡青年会議所と鶴岡市社会福祉協議会が協定の締結式を行いました。

- ・日 時 平成 30 年 12 月 26 日（水）
- ・場 所 鶴岡市総合保健福祉センター

⑨ 各福祉センターの主な取組

【鶴岡福祉センター】

毎週月曜日午後と水曜日に実施している、ボランティアの交流の場「ちょボラ場」が、ひきこもり等から社会参加につなげる場として参加する若者等が増加傾向にあり、30 年度は 135 回開催し、延べ 1,115 人（うち若者等 660 人）の参加がありました。

また、隔年で交換訪問している江戸川福祉ボランティア団体協議会との交流事業は、鶴岡市から 17 人が 7 月 7 日・8 日に江戸川区を訪問し、鶴岡市と江戸川区の歴史やこれまでの交流の経緯等を学ぶ時間をつくり、「えどがわボランティアフェスティバル」への参加等、江戸川区のボランティアとの交流を行いました。

企業からのボランティア活動の相談を受け、朝日地域の一人暮らし高齢者宅等の除雪

活動を、朝日地域南部地区コミセンや地域包括支援センターあさひ、朝日福祉センター等との調整で17人の参加で実施したほか、NPO法人公益のふるさとづくり鶴岡からの相談を受け、「介護のお仕事体験」をくしびきすこやかセンターとの調整で実施し、小学生12人が参加しました。他にも、パソコン要約筆記講座や点字入門講座等のボランティア団体が行う講座への協力など、他の団体等と連携してボランティア活動を推進しました。

【藤島福祉センター】

気軽にちょっとしたボランティア活動ができる機会の提供と、ひきこもり者等の社会参加の場とするための「ちょボラ場」を11回開催し、延べ45人の参加があり、ボランティア活動としての取組に加え、会話を楽しめる機会にもなりました。

【羽黒福祉センター】

傾聴ボランティアグループ「しゃべってほっとの会」が行うサロン活動へ支援を行いました。また、サマーチャレンジでは、小・中学生9人が参加し青色駐車場整備を実施し、3カ所整備しました。福祉学習では視覚障がいを理解する勉強会を開催し、視覚障がいのある当事者を講師に迎え6人の小中学生が講話や「ブラインドテニス」を体験し、障がい者の理解を図りました。

【櫛引福祉センター】

小学校4年生以上の児童生徒を対象に夏休み期間を利用した「サマーチャレンジ in くしびき」として、地域内の施設との連携のもと17人の子どもたちがボランティア活動を行いました。保育園のボランティアを希望する生徒が多く、「小さい子に注意するのは難しい」「みんな別々の遊びをしたがる」「保育園の時を思い出した」など、体験を通じいろいろなことを考える有意義な活動になりました。

【朝日福祉センター】

地域でのボランティア活動を行っている「さわやかなの会」（空き缶回収）、配食ボランティア（食の自立支援）、「ほほえみ桜の会」（移送サービス）合同でボランティア研修交換会を開催し8人が参加しました。日頃の活動について情報交換を行い、団体間の連携を図りました。

【温海福祉センター】

温海庁舎総務企画課との共催で、主に中学生を対象とした「ボランティア養成講座」を5回開催し、延べ57人の参加がありました。参加者からは、今後も自分ができることをボランティアとしてやってみたいとの感想があり、活動を通して地域の担い手養成に努めました。

(3) 福祉教育推進

① 福祉学習助成金交付状況

児童・生徒の福祉の心を育てるため、各学校の福祉学習、ボランティア体験学習に対して助成金を交付しました。

<助成金交付状況>

年度	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計	
					学校数	助成金額
28	16校	2校	3校	1校	22校	532,000円
29	13校	4校	4校	1校	22校	532,000円
30	14校	5校	5校	1校	25校	429,000円

② 福祉学習サポーター活動の実施

福祉学習等への協力として17の方が福祉学習サポーターに登録し、ボランティアセンターや福祉センターが実施するボランティアの推進、福祉学習に協力していただきました。(実施回数11回、延人数26人)

③ 各福祉センターの取組

【鶴岡福祉センター】

学校、児童館、地域の団体、福祉施設等で、福祉学習サポーターや地域包括支援センター、福祉施設職員等と協働して、障がい者との交流など体験学習をプログラムとした福祉学習やボランティア講座を企画・実施し、「福祉の心」を育む一助としました。

<福祉学習・ボランティア講座の実施状況>

年度	回数	参加延人数	対 象
28	19回	1,150人	小学校6校・中学校2校・児童館2館・団体3団体
29	17回	723人	小学校4校・中学校3校・高等学校2校 養護学校1校・児童館1館・団体3団体
30	22回	1,362人	小学校6校・中学校4校・高等学校2校 児童館2館・団体4団体

※各福祉センターを含む市内全域対象でボランティアセンターが関わった取組

【藤島福祉センター】

夏休み中の小学生を対象に、バリアフリーをテーマにしたサマーチャレンジや赤い羽根共同募金の街頭募金活動を行い、ボランティア活動の場を提供しました。

<福祉学習の実施状況>

年度	回数	参加延べ人数	対 象
28	1回	11人	小学校4校・藤島児童館
29	2回	11人	小学校4校・中学校1校・藤島児童館
30	2回	23人	小学校3校・藤島児童館

【羽黒福祉センター】

小学生を対象とした介護予防デイサービスでの世代間交流、また、中学校での福祉学習として、障がいのある方の講師による障がいの理解に関する講演を行いました。さらに、地域包括支援センターとの協働により、認知症に関する研修や車いす等の介護体験研修を通して福祉へ理解を深める事業や学習を実施しました。

<福祉学習の実施>

年度	回数	参加延べ人数	対 象
28	2回	90人	小学校1校、中学校1校
29	3回	118人	小学校2校、中学校1校
30	3回	116人	小学校2校、中学校1校

【櫛引福祉センター】

福祉や介護、健康づくりなど積極的に地域に出向いた「ふれあい福祉講座」を、櫛引地域の全ての介護保険事業所と協働し、それぞれの専門性や特色を生かした講座メニュー14から選択してもらい実施しました。また、福祉学習の取組では、学校と話し合いを重ね、障がいのある方、高齢者の方より講演していただき、障がい者、高齢者への理解を深める体験学習となりました。また、30年度より中学2年生に「平和学習」を実施することができました。

<ふれあい福祉講座の実施状況>

年度	回数	参加延べ人数	対 象
28	14回	306人	9団体
29	10回	207人	
30	11回	179人	

<福祉学習の実施状況>

年度	回数	参加延べ人数	対 象
28	2回	62人	小学校2校
29	2回	59人	小学校2校
30	3回	114人	小学校2校、中学校1校

【朝日福祉センター】

認知症サポーター養成講座を小学校6年生29人、中学校26人を対象に行いました。

また、「愛のふれあいコンサート」や「雪ランタンまつり」等のイベントにおいて、高校生ボランティアサークル「かだんこの会」の活動機会をつくり、ボランティア活動の促進を図りました。

<福祉学習の実施状況>

年度	回数	参加延べ人数	対 象
28	2回	34人	小学校1校、中学校1校
29	0回	0人	実施なし
30	2回	55人	小学校1校、中学校1校

【温海福祉センター】

温海中学校の3年生を対象に、福祉の心を育むことを目的とした福祉全般に関する講話と、地域で生活している障がい者の方が講師となり体験談やメッセージを伝える福祉学習を実施しました。

<福祉学習の実施状況>

年度	回数	参加延べ人数	対 象
28	1回	61人	中学校1校
29	1回	61人	中学校1校
30	1回	60人	中学校1校

大震災等支援活動推進事業

東日本大震災の発生直後から鶴岡市に避難した方々への支援を継続して実施しており、30年度も県社協の委託を受けた避難者生活支援相談員を1人配置し、支援活動を実施しました。

避難者数は、年々減少しているものの41世帯113人(31年3月31日現在)、その内訳は、帰宅困難世帯を含めた福島県が34世帯93人、宮城県が7世帯20人となっています。中でも高齢者の引きこもりや孤立化が懸念されるため、高齢者同士の交流を深め様々な不安や悩みの軽減を図るとともに、安心して生活できるように交流会を通して働きかけを行いました。

また、支援の方向性については、鶴岡市との連携を密に継続して取り組んでおり、避難者の方々の居住地の各種事業への参加や人間関係づくり等を進め、さらに、一人暮らしの高齢者には、生活上の専門的な相談機関や町内会長、民生委員・児童委員、地域包括支援センター等との関係づくりを積極的に行いました。

① 避難者交流事業

事業名	参加延べ人数
一人暮らし高齢者交流事業「にこにこ交流塾」 30年7月～31年3月（全5回）	35人
第六学区避難者支援事業（落語を楽しむ会）招待により参加 30年9月	5人
8年目のキャンドルナイト実行委員会主催「追悼と防災の集い」参加 31年3月11日 ※参加はフリーにより人数把握せず	—

② 訪問・相談活動

避難生活の長期化に伴い避難者の孤立が心配されることから、県の依頼により本市に避難しているすべての世帯に対し訪問活動を実施し、生活状況の実態等を確認しました。

また、山形県看護協会の協力のもと同行訪問を随時行い、特に高齢者を中心とした見守り訪問や電話による声かけを実施しました。併せて、支援者からの相談対応や関係機関との連携も随時行いました。

<相談対応状況：方法>

（単位：件）

年度	訪問	電話	メール	来所	つなぎ	他	合計		
							避難者	支援者	計
28	491	650	479	112	34	331	674	1,423	2,097
29	320	463	332	74	16	240	418	1,027	1,445
30	262	367	391	57	6	49	379	753	1,132

<相談対応状況：種別>

（単位：件）

年度	住まい	健康医療	子ども	高齢者	職業	金銭	他	合計		
								避難者	支援者	計
28	417	121	191	353	69	62	1,691	1,029	1,875	2,904
29	210	141	133	344	57	54	1,207	725	1,421	2,146
30	165	153	126	273	73	38	850	669	1,009	1,678
連携先	福島県避難者支援課、山形県復興・避難者支援室、山形県社会福祉協議会、山形県看護協会、鶴岡市関係各課、やまがた避難者支援協働ネットワーク、ボランティア団体 等									

※ 合計以外の件数は、避難者と支援者の合計数

※ 方法と種別は、対応の重複等の関係で合計件数は一致せず。

③ 広報、啓発事業

「鶴岡市避難者支援だより」(No.311～328)を発行しました。特に、地域とのつながりを意識した情報をより多く発信することに努めました。

④ 関係団体との連携

- ・山形県看護協会との連携
全戸訪問への同行訪問
交流事業への参加
- ・ボランティア団体「チーム飛躍」との連携
学習支援『週末寺子屋』の開催
開催頻度 月1回
会場 にこ♡ふる
参加延人数 112人

※ チーム飛躍：鶴岡市に避難している子どもたちとその保護者が、慣れない避難生活を送る中で落ち着かない日々が続き、中には不登校になる子どもや心のケアを必要とする親もいたことから、教員OBや有志の方々が学習支援に協力するグループ「チーム飛躍」を立ち上げて、現在も活動を継続している。

- ・ボランティア団体「ぼらんたす」との連携
ぼらんたすが運営する『楽家』にて交流会を実施

地域福祉運営事業・支部運営事業

① 福祉のつどいの開催

地域福祉活動などに功績顕著な個人又は団体に対して表彰を行いました。また、地域福祉活動として、「近くに頼れる人がいない」「高齢になり一人暮らしが心配」「子育てに悩んでいる」「自分にできることはないだろうか」等の住民の困ったこと、想いを形にした住民主体活動を紹介するとともに、「おだがいさまに支え合うまちづくりのポイント」と事例紹介として、全国コミュニティライフサポートセンター理事長の池田昌弘氏の講演を行い、参加者の地域福祉活動の意識の向上に努めました。

<実施状況>

年度	活動紹介	講演	表彰数	参加者数
28	社協合併後のあゆみ	「孤立しない、させない、おだがいさまのまちづくり鶴岡をめざして」 法政大学教授 宮城孝氏	個人 9 団体 4	374人

29	鶴岡地域生活自立支援センター「くらしス」～ふつうの暮らしを求めて～	気になる人を真ん中に「ご近所パワー活用術」ボランティアグループ「すずの会」代表 鈴木恵子氏	個人 4 団体 8	394 人
30	想いをカタチに～おだがいさまのまちづくり～（第一学区、大山地区、小堅地区、羽黒地区、温海地区の地域福祉活動紹介）	「地域の宝もの」みつけた！～だれもおだがいさまのまちづくりを目指して～ NPO法人「全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）」 理事長 池田昌弘氏	個人 3 団体 10	340 人

※ 会場：中央公民館市民ホール

② 「鶴亀番付」の発行

数え年で 100 歳以上の長寿者をお祝いするとともに市民の励みとしてもらうことを目的に、敬老の日に合わせて鶴岡市と連携し「鶴亀番付」（相撲の番付風に長寿者を記載）を発行しました。

- ・発行部数 1,850 部
- ・配布先 番付掲載者、鶴岡市敬老のつどい参加者、各公民館、学区・地区社協等、各福祉センター、高齢者福祉施設等

<番付掲載者数の状況>

年度	人数
28	126
29	150
30	156

③ 鶴岡市地域福祉活動計画の進行管理

鶴岡市地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画 2015」（5 ヶ年計画）の実施にあたり、30 年度は中間年の検証を行い、日本地域福祉研究所から助言指導を受け、地域福祉活動計画の重点事業の実施に関する会議を開催し進行管理を行いました。

<実施状況>

月日	会議名	出席人数
7 月 27 日	第 1 回地域福祉活動計画推進に係る意見交換	11 人
2 月 22 日	第 2 回地域福祉活動計画推進に係る意見交換	10 人

④ 地域支え合いプランの推進

住民主体の支え合い活動による、福祉のまちづくりの構築を目的に策定した「地域支え合いプラン」（計画期間 5 年間）の推進について、各福祉センターにおいてプロジェクト会議、検証会議等によりその具体的な取組や協議を行いました。

【藤島地域支え合いプラン】「みんなの藤島 いいどごプラン」

支え合いプラン実施 4 年目の 30 年度は、地域の特色ある福祉活動を目指し、29 年度に引き続き重点目標である「農福連携」に取り組みました。庄内農業高校の農地を活用して生徒と高齢者が交流しながら野菜を栽培し、そこで採れたものを一人暮らし高齢者や地域のグループホームなどに届ける取組を行いました。農業と福祉の連携を通しての交流と活用を心掛け、様々な地域資源を巻き込み展開したことで、世代間の交流だけでなく成果物を活用した地域支援と地域活性化につながりました。

【羽黒地域支え合いプラン】「羽黒おもいやりプラン」

支え合いプラン 3 年目として、「災害に強いまちづくり」では、泉地区活動センターで行われた鶴岡市の総合防災訓練において災害ボランティアセンター設置シミュレーションを実施し、要援護者の実態把握、災害に対するボランティアセンターの役割、ボランティア活動の注意点等について確認しました。「地域活動センターとの連携」では敬老会や高齢者元気塾等事業に参加し協働を図りました。また、「なりげんき塾」を 3 カ所で開催し地域活動支援を実施、終了後の活動継続についても提案しました。

【櫛引地域支え合いプラン】「くしびき ささえ愛プラン」

「くしびき ささえ愛プラン」では、福祉活動支援等の目標に取り組み、住民自治組織内に「福祉部等」を立ち上げることとし、特に 3 地区では福祉マップ、認知症家族支援、除雪など構成員による情報交換を密にし、お互いに支え合う体制を強化している事例が生まれました。また、他の地区でも立ち上げの実現を目指した取組を行うなど、徐々に住民による支え合いの意識が醸成されました。

【朝日地域支え合いプラン】「ともに生き 互いに支え合う地域 朝日」

地域福祉委員会で地域課題や進捗状況の中間報告を行いました。各自治体にサロンの立ち上げや、介護予防事業などが進み浸透していることを実感しました。まだサロン等を支える担い手の育成は進んでいない状況ではありますが、サロンの情報交換会もかねての研修を開催したことで地域の緩やかな見守りの体制は徐々に進みました。

また、豪雪地帯である朝日の除雪問題は、30 年度は企業ボランティアによる除雪を行いました。

【温海地域支え合いプラン】「夢・希望を叶える地域での取組み」

30 年度は中間年であることから、地域福祉委員会や地域の集まりなどで検証を行いました。また、地域課題の一つとして日常生活の買物に焦点を当て、地域福祉委員会でグループワークを行い、その結果を受け、31 年度以降の活動につなげていくこととしました。

地域公益活動を行う市内社会福祉法人の連携の推進

29年度から継続して行っている鶴岡地区特養連絡協議会の会員である9つの社会福祉法人の役職員を対象にした取組として、30年度は、各社会福祉法人が実施している地域における公益的取組の活動状況の聞き取りを行い取りまとめました。また、取りまとめた資料と合わせ、社協内の相談支援機関（地域包括支援センター・障害者相談支援センター・生活自立支援センター）からの生活課題の事例提供を資料として、9法人の役職員を対象とした懇談会を行いました。

懇談会では公益的取組についての情報交換や意見交換を行い、31年度からの社会福祉法人が連携して公益的取組を実施するための体制を確認することができました。

また、社協内では、今後の公益的取組の活動の参考とすることを目的とした研修会を実施しました。

<研修会の開催>

	月日	場所	内 容	参加人数
1	7月12日	にこ♡ふる	対象：社協の地域福祉課、福祉センター職員 社協の管理職 講演：公益的取組とはどのようなものか 公益的取組の具体的事例 社会福祉法人に求められるもの 講師：山形県社会福祉協議会 地域福祉部 主査 鈴木利宜氏	26人
2	2月22日	出羽庄内 国際村	報告：①9法人の公益的取組内容 ②相談機関からの生活課題、事例 意見交換 ①法人が単体で取り組める活動 ②法人が連携して取り組める活動 ③社会福祉協議会の果たす役割 助言講師 NPO法人日本地域福祉研究所 副理事長 宮城孝氏	44人

(5) 家族介護者交流支援事業（市受託事業）

在宅介護者を対象として、地域包括支援センター等関係機関の協力を得て情報提供や介護相談、会食、温泉入浴、マッサージ等を行い、参加者同士の交流と情報交換により介護者の心身のリフレッシュに資することができました。

<実施状況>

(単位：回数→回、人数→人)

年 度	鶴岡		藤島		羽黒		櫛引		朝日		温海	
	回数	人数										
28	7	69	1	32	2	20	2	20	1	16	2	25
29	5	93	1	21	2	31	2	19	1	10	2	23
30	4	69	2	19	2	23	2	26	2	15	2	25

(6) 福祉バス運行事業

福祉関係団体やボランティア団体等の地域福祉推進を目的とした研修や社会参加活動に対し、福祉バス運行による支援を行いました。なお、同事業については道路運送法に基づいて実施していることから、同法に関する通知等を踏まえ、今後の運行について市担当課と検討しました。

<実施状況>

年度	鶴岡			藤島		
	運行日数	運行回数	延べ利用人数	運行日数	運行回数	延べ利用人数
28	401日	401回	7,424人	107日	107回	1,508人
29	414日	414回	7,744人	75日	75回	1,001人
30	397日	397回	7,200人	47日	47回	692人

※運行台数：鶴岡地区 2台、藤島地区 1台

(7) 共同募金運動の推進（鶴岡市共同募金委員会）

① 募金運動

全福祉センター一律に、赤い羽根募金と歳末たすけあい募金合わせて戸別募金 500 円を目安に募金運動を展開し、住民の方々から多くのご協力をいただきました。

<募金実績>

(単位：円)

年度	戸別募金	学校募金	法人募金	その他募金	合計
28	17,085,889	776,649	1,081,000	1,983,300	20,926,838
29	16,548,889	716,221	1,061,500	1,838,168	20,164,778
30	16,876,202	786,363	1,033,500	1,773,173	20,469,238

② 配分

赤い羽根募金（30年度分）については、市内の組織、団体、特定非営利活動法人（NPO法人）等が実施する23の事業に配分決定され、各団体において31年度の地域福祉活動等に配分金を活用する予定です。

歳末たすけあい募金については、経済的に支援が必要な世帯及び児童養護施設入所者に義援金としてお渡しし、新たな年を迎えるための一助としました。

<福祉施設・団体への配分>

配 分 事 業	30 年度		29 年度	
	件数 (件)	金額 (円)	件数	金額 (円)
地域福祉・在宅福祉事業	11	2,624,000	11	2,594,000
「福祉の心」推進事業	2	120,000	2	120,000
障がい者小規模作業所支援事業	3	450,000	2	271,000
民間立学童保育所支援事業	5	669,000	11	1,563,000
福祉車両整備事業	2	3,000,000	5	6,949,000
合 計	23	6,863,000	31	11,497,000

<地域福祉活動推進のため鶴岡市社会福祉協議会へ配分>

配 分 事 業	30 年度 (金額 : 円)	29 年度 (金額 : 円)
ボランティア活動推進事業	2,759,238	2,618,778
地域支え合い体制推進事業	4,916,000	4,445,000
広報誌発行事業	1,500,000	1,500,000
合 計	9,175,238	8,563,778

<歳末たすけあい募金配分>

区 分	世帯員数	30 年度		29 年度	
		件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)
経済的に支援を 必要とする世帯	1～2 人	338	2,028,000	353	2,118,000
	3～4 人	112	1,008,000	122	1,098,000
	5 人以上	29	290,000	38	380,000
	小計	479	3,326,000	513	3,596,000
児童養護施設入所児童・生徒		18	300,000	17	213,000
小 計		497	3,626,000	530	3,809,000
募金運動に関わる事務費経費		—	108,000	—	114,000
合 計		497	3,734,000	530	3,923,000

2. 生活支援事業

(1) 総括

低所得による生活困難や高齢、障がい、その他様々な要因により生活課題を抱える方々の相談に応じ、制度やサービス利用で改善が見込める状況には随時申請などの支援を行いました。また、失業・病気・困窮など複雑な課題を抱える方の相談が増えていることから、行政や高齢者、障がい者の相談機関、鶴岡地域生活自立支援センターなど福祉の関係機関だけでなく、司法、児童など必要に応じて多職種との連携を図りながら相談者への支援に取り組みました。

高齢や障がいなどにより日常生活における判断能力に不安がある方については、福祉サービス利用援助事業や、家庭裁判所より成年後見人の選任を受けて実施している法人後見事業などで日常的な金銭管理の支援や療養看護及び財産の管理を行い、利用者が安心して生活できるよう権利擁護活動を推進しました。

生活困窮者への支援については、一時的な困窮の解消だけでなく背景にある多様な課題にも目を向け、必要な関係機関へつなぐなど自立に向けた支援を行いました。

(2) 重点事業

① 成年後見制度の意識啓発

成年後見制度の啓発のため、関係職員への制度周知や、地域福祉課の協力を得て町内会の研修などに出向いて啓発活動を行いました。

30年度中に市民を対象とした成年後見制度の研修会開催を予定していましたが、成年後見制度利用促進基本計画の策定を踏まえ、関係機関の理解と課題共有を図るための勉強会を2月に実施しました。市民対象の研修会については制度周知が浸透しておらず「わかりにくい」というイメージがあることから、より参加しやすい研修会にするために31年度の開催に向けて内容を検討しました。

② 生活困窮者などの就労支援

鶴岡地域生活自立支援センターくらしスが支援している方の中で、就労による自立を目指し福祉施設で働くことを希望する方について、新規事業として就労体験受入事業を開始し、社協が運営する福祉施設で受入れを行いました。30年度は4人の方がこの事業で体験を行い、1人が児童関係の施設で一般就労に移行しました。

③ 「(仮称)つるおか権利擁護センター」の設置の検討

高齢や障がいなどにより各種手続きや財産管理等を自分で行うことが困難になり、日常生活に支障を来す方々が今後も増加することが見込まれることから、成年後見制度や日常生活自立支援事業の周知や利用の拡充、その他権利擁護に関わる総合的な支援機関の設置について検討しましたが、運営形態や財源など設置に向けては多くの課題整理が必要であり、引き続き行政や関係機関と連携し検討する必要があります。

④ 新たな生活支援サービス事業の検討

生計困難など日常生活の維持に関わる課題や、家族や親族のいない方や協力を受けられない方の入院、入所、死後の対応（葬儀・納骨・家財処分等）、居所を確保するための入居保証など既存の制度やサービスでは対応できない生活支援サービス事業については、今後ますます必要とされる事業であるため引き続き具体的な実施方法の検討を行います。

(3) 生活支援関連事業

① ふれあい福祉相談事業

ふれあい福祉相談の相談件数は合計 668 件で、相談の内訳では 29 年度同様生計に関することが多く、約 400 件の相談がありました。

巡回法律相談は 93 件で、相続や債務などの金銭に関する相談のほか離婚、不動産関係など多岐に渡る相談内容となりました。

<ふれあい福祉相談件数>

(単位：件)

項目		鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
28	常設相談	237	126	50	8	22	141	584
	法律相談	66	5	8	8	5	8	100
29	常設相談	293	80	138	43	14	157	725
	法律相談	65	4	8	7	5	6	95
30	常設相談	375	31	89	21	90	62	668
	法律相談	64	8	8	4	5	5	94

② 日常生活自立支援事業

日常生活自立支援事業の契約件数（利用者数）は 30 年度末で 152 件（旧市 131 件、旧町村地域 21 件）で、29 年度末から 23 件の増となりました。新規契約が解約を大きく上回り、例年のない増加傾向となりました。利用者の内訳は、認知症高齢者と精神障がい者の割合が合わせて全体の約 72%を占め、経済的に破綻しており、契約前から債務整理や生活保護の相談機関へつながらなければならないケースや、契約後も頻回な電話連絡や浪費につながる払戻し要求があるなど対応に苦慮するケースもありました。また、居宅介護支援事業所や障がいの相談機関、病院などからの相談が増えており、家族や親族がいない、もしくは交流が無く全く援助が受けられないケースも少なくないことから、契約中はもとより、解約後の支援体制も見据えた各関係機関との情報共有や連携が重要になりました。

<契約件数等の推移>

(単位：件)

年度	相談件数	新規契約件数	利用者数
28	1,379	28	120
29	1,425	29	129
30	1,870	41	152

③ 権利擁護ネットワーク構築事業

法人後見については被後見人の死亡による後見終了ケースが多かったため、30年度末現在で13件となりました。法人後見業務については、成年後見運営委員会などで指導及び助言を受け、手順書に沿って適切な業務を行いました。が、家族や親族の有無が不明な方や生前から交流が断絶している方などは、本人の死亡後に相続人へ預り書類の返還ができないなど死後手続きがスムーズに行われない例もあり、時間をかけて相続人の調査や連絡調整を行い、適正な事務処理を進めました。

<法人後見受任件数>

(単位：件)

年度	後見	保佐	補助	合計
28	12	2	2	16
29	12	3	2	17
30	6	5	2	13

<申立別件数>

(単位：件)

項目	後見	保佐	補助	合計
親族申立	4	1	0	5
市長申立	2	3	1	6
本人申立	0	1	1	2
合計	6	5	2	13

④ 生活福祉資金貸付事業

生活福祉資金貸付は、一時的な出費による生活費不足を補うための緊急小口資金の申請が多く、次に多いのが高校や大学への進学や進級に伴う教育支援費・就学支度費と転居費の貸付となりました。償還については、県社協や民生委員などの関係機関と連携を図りながら状況把握と償還指導を実施しました。

<生活福祉資金相談件数等>

年度	相談件数	貸付件数	貸付金額
28	166	41	12,153,000円
29	180	60	42,261,560円
30	123	53	35,628,000円

<生活福祉資金新規貸付状況>

(単位：件)

項目	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
総合支援資金	1						1
教育支援費	11		1				12
就学支度費	7						7
技能修得費							0
療養費	1						1
障がい者自動車購入費	1	1					2
転居費	9	1					10
緊急小口資金	12	2	1	1			16
その他	4						4
合計	46	4	2	1	0	0	53

⑤ たすけあい資金貸付事業

貸付理由は、生活保護申請から決定までのつなぎの生活費や、日常的な金銭管理が計画的にできない、もしくは低収入の状況に急な出費があったため生活費に困っているケースがほとんどで、金銭管理に課題がある方で要件に該当する方は、日常生活自立支援事業の利用などの相談に移行する場合もありました。

フードバンク⁹については、コープフードバンクからの食品提供や地域住民の協力によるフードドライブの取組、個人の寄附などに支えられ、緊急的に支援が必要な方へ食料品の提供を行うことができました。また、フードバンクの利用により、貸付制度を利用せず一定期間の生活を乗り切ることができた例もあり、生活困窮者などの支援として重要な事業となりました。

生活福祉資金を含め滞納世帯への償還指導は、文書や電話連絡に加え 32 世帯の訪問を行い、世帯の現状把握と償還指導（本人へ直接 11 件、家族に依頼 2 件、不在 19 件）を実施しました。不在世帯には再訪問も行い、面談で債務解消に向けた具体的な相談や鶴岡地域生活自立支援センターくらしの紹介を行うなど滞納の解消に向けた支援を進めました。借受人が所在不明になっているケースについては今後居住地調査などを検討します。

<たすけあい資金相談件数等>

年度	相談件数	貸付件数	貸付金額
28	117	108	2,993,000 円
29	134	120	3,340,500 円
30	135	102	2,878,500 円

⁹ フードバンク（食料銀行）：包装のいたみなどで、品質には問題がないにもかかわらず市場で流通できなくなった食品を企業などから寄附を受け、生活困窮者などに配給する活動。

<たすけあい資金新規貸付状況>

(単位：件)

項目	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
生活費	43	8	2	4	3	3	63
生活保護つなぎ資金	21	4	1	2		2	30
治療費・療養費							0
入園・入学及び支度金	2						2
住宅費	1						1
転居費	2						2
その他	4						4
合計	73	12	3	6	3	5	102

<フードバンク食品提供件数>

(単位：件)

年度	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
28	65	3	1	0	0	1	70
29	99	3	3	0	3	0	108
30	128	7	2	6	2	4	149

(4) 自立相談支援事業（生活困窮者支援事業）

自立相談支援事業については、経済的に困窮しているということだけでなく、背景にある病気や失業、様々な要因による社会的孤立など生きづらさを抱えた相談者に対し、自立に向けた様々な支援に取り組みました。

相談件数は217件でしたが、コミュニケーションが苦手な人やこだわりが強い人など、支援が長期化傾向にある対象者が増加しつつありました。

また、アウトリーチの視点から2ヵ所（西郷地区農林活性化センター・エスモール）で出張相談会を実施し、居住地から近い場所での相談機会を設けました。

<相談件数等>

(単位：件)

年度	相談件数	プラン作成	増収入者数	就労者数
28	214	45	58	58
29	252	54	12	48
30	217	42	8	43

<相談内容> ※重複含む

(単位：件)

年度	相談内容内訳																合計
	病気・障がい・健康	住まい	収入・生活費	家賃・ローン	税金・公共料金	負債	仕事探し・就職	仕事上の不安やトラブル	地域との関係	家族との関係	子育て	介護	ひきこもり・不登校	DV・虐待	食べるものがない	その他	
28	98	54	140	21	39	23	92	32	9	74	20	21	19	15	24	18	699
29	106	50	122	17	38	21	100	19	6	37	16	6	27	9	4	13	591
30	83	36	114	29	33	32	84	11	2	24	10	10	14	7	3	0	492

○ 包括的・継続的・即応的な支援

相談者が抱える課題にできるだけ早く対応し深刻化しないよう努めるとともに、自立支援の視点で、就労に至るまでと就労後も継続して支援に取り組みました。

○ ネットワークの構築

事業内容を理解していただくために、「くらしスだより」を発行して関係機関へ配布するとともに、単位民協や様々な組織の研修会等で事業の説明を行い周知に努めました。

平成27年度から開催している市福祉課主催の庁内連携会議のほか、目的別に「すまい部会」や「就労支援部会」を市福祉課と連携して開催しネットワークの強化を図りました。

また、NPO法人山形県ひとり親家庭福祉会が受託し鶴岡市母子会が実施している学習支援事業と子ども食堂では、調理ボランティアの調整や食材寄附の受付など側面的な支援を担い、個人ボランティアや庄内農業高校の生徒、食文化創造都市推進協議会会員など多くの方々から協力を得ることができました。

具体的な就労支援として、相談者の就労訓練や就労の受入れを目的とした企業開拓や事業説明も継続して行い、相談者の自立支援に協力していただける事業所も増えました。

○ 生活困窮者支援を通じた地域づくり

社会参加の段階的体験として、鶴岡市ボランティアセンターが実施しているちょボラ場への参加のほか、農業体験、赤川花火大会の準備や市主催の子ども祭り、大産業まつりなどの野外イベントにボランティアとして参加するなど、相談者が新しい体験を積むことで自立に向けたステップアップを図ることができました。また、協力していただいた地域の方からも生活困窮者支援に理解と関心を高めていただき、今後の地域づくりの足掛かりとなりました。

3. 高齢者福祉事業

(1) 総括

報酬改定やニーズの変化に対応しながら、介護保険の基本理念に基づき、「利用者の目指す生活、自分らしい生活」を送るための支援に努め、市民、利用者から信頼され選ばれる高齢者福祉サービスの提供に努めました。

また、介護職員の人財確保・育成については、介護職員初任者研修、介護職員実務者研修、喀痰吸引等の資格取得の研修体系を整理し、社協職員をはじめ、鶴岡市内の介護に従事する職員が働きながら福祉専門職に必要な資格を取得するとともに、介護のプロとしてスキルアップし、定着できるよう取り組みました。30年度から行った介護職員実務者研修には13人の受講があり、講師を務めた職員も真剣に緊張感を持って対応しました。介護福祉士試験では13人中12人が受験し11人が合格することができました。

介護保険事業については、「山形県ICT活用プロジェクト支援補助金」を活用して情報通信技術や業務改善ソフトを導入し、業務の効率化等を図るとともに職員の負担を軽減し、働きやすい職場づくりに取り組みました。

(2) 重点事業

① 「第二期 事業経営計画」の中間年の検証と推進

計画3年目として、推進作業班によるこれまでの取組内容の検証や中間評価を行いながら、継続して取り組む内容や新たな取組について検討し対応しました。

基本的な視点	重点課題に対する30年度の主な取組
1. 人権を尊重し信頼性の高いサービスの提供	<p>①良質なサービスの推進</p> <ul style="list-style-type: none">・第三者委員による介護保険施設や保育園への訪問を継続実施し、第三者委員について利用者、家族から知っていただくとともに、意見を聞く機会を設けました。・満足度調査については実施に向けてチームを立ち上げて準備を進めました。 <p>②リスクマネジメント体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none">・石巻専修大学教授の照井孫久氏による研修やアセスメントを実施し、リスクマネジメント担当者が中心となり事故や苦情の対策を講じ、安全な福祉サービスの提供に資する機会としました。 <p>③障がい者が自分らしく暮らしていくための取組</p> <ul style="list-style-type: none">・社協の障がい福祉サービスを利用している方へのアンケート調査の結果をまとめ、管理職や事業経営計画推進班会議で報告するとともに、今後「本人の思い」をどう形にしていけるかを検討することとしました。

基本的な視点	重点課題に対する 30 年度の主な取組
2. 地域に開かれた施設づくり	<p>①福祉に対する理解の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉課主催の「地域における公益的な取組」に関する研修に参加し、地域福祉の理解に努めました。また、地域での福祉学習に施設職員が協力し、小・中学生に車いすの操作説明を行うなど施設職員のスキルを生かすことができました。 <p>②地域貢献の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉課で行った各施設からの公益的活動の聞き取り調査に協力し、今後調査結果をまとめることとしました。 <p>③災害時における地域との連携・協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災計画（風水害・土砂災害）の見直しを行い、計画を市担当課（福祉課・長寿介護課）に提出しました。 ・台風や地震などの自然災害時における事業継続「大規模災害に対するBCP（事業継続計画）」について原案を策定し、さらに内容の検討をしました。
3. 働きがいのある職場づくり	<p>①人を大切にし、やりがいの持てる職場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協職員全員（正規職員・契約職員・嘱託職員）を対象に働きやすい職場づくりに向けたアンケートを実施し、結果から実行可能な項目を抽出し、具体的な取組について検討をしました。 <p>②人財確保と介護職員の養成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人財確保を図るため、社協ホームページを随時更新し活用することができました。 ・介護職員実務者研修を実施し、受講生 13 人（うち社協職員 11 人）の受講がありました。 <p>③専門職のための資質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体系的な研修プログラムの構築では、事業部門として研修体系の原案を策定し、発展・強化計画との連携について検討を進めることとしました。 ・実践報告会の開催については、「ひかり輝く☆取り組みコンテスト」の開催に向けて要項を策定し社協全部署へ周知しました。
4. 安定したサービスが提供できる経営組織の構築	<p>①適正かつ効率的な経営管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営方針の原案を策定し、今後施設長会議や事業経営会議で検討することとしました。 ・地域ニーズに即したサービスの展開については、推進作業班 5 班が担当している「将来性・継続性を見通した事業の展開」と連携を図りながら検討することとしました。

基本的な視点	重点課題に対する 30 年度の主な取組
	<p>②コンプライアンスの徹底に向けた体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護事業所で、法令遵守に係るチェックノートを活用し支援の振り返りを行いました。その効果と課題を整理した上で、職員一人ひとりの意識向上と法令遵守のため、部門ごとに即したチェックシートを作成することとしました。 <p>③施設運営の管理体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の経営意識の醸成を図るため、7月の施設長会議において、総務課情報経理係より資金収支計算書や貸借対照表の見方についての研修を行いました。
<p>5. 将来性・継続性を見通した事業の展開</p>	<p>①ニーズ把握による新規事業の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険並びに障がい福祉サービス担当の若手職員を中心に「ワールドカフェ方式¹⁰」を用いて社協の未来について語り、新たなアイデアを出し合う場を設けました。40歳未満の職員を対象とした職員座談会には54人、40歳代の職員を対象とした職員座談会には70人参加し、新規事業のアイデアが数多く出されました。

② 利用者の権利擁護と個別機能訓練の充実

施設毎に利用者の尊厳の保持と権利擁護の推進を図るため、接遇研修や専門的な研修を行い専門職としての資質向上に努めました。

また、看護師・理学療法士・作業療法士の専門職による機能訓練メニューや日々の生活に沿ったリハビリ等を通し、個別機能訓練の充実を図りました。

③ リスクマネジメントの推進

30年度は、石巻専修大学教授の照井孫久氏よりリスクマネジメント理論、実践、更に施設毎にアセスメントを行い、その結果に基づいた課題を抽出、改善の取組、評価を行い、介護事故のリスク把握と組織的なリスク管理等、リスクマネジメントを確実に実行する取組を行いました。

また、29年度に引き続きリスクマネジメント目標の報告会を開催し、お互いの取組を知るとともに学び合う機会としました。

◆自動車事故報告

自動車事故では、施設内や送迎先での接触事故が多く発生しました。周囲の確認を十分に行うとともに、添乗員と連携を図りながら事故防止の徹底に努めました。また、車両の破損原因が特定できない「不明」扱に対しては、運転前・運転後の点検を必ず行うとともに、事故を起こしたら速やかに報告する意識付けを徹底しました。

¹⁰ ワールドカフェ方式：新しい話し合いの手法で、参加者同士がリラックスし、気軽に自由に対話できる方式。

運転業務の事故防止を図るため、10月に社協全事業所を対象に山形県鶴岡警察署による「安全運転研修会」を開催し、早めのライト点灯、運転者の安全運転義務等について研修を行いました。研修には施設職員、福祉センター職員、シルバー人材センターの派遣職員も含め71人の参加がありました。

<自動車事故件数> (単位：件)

年度	衝突 追突	接触	脱輪	破損	人身 事故	車両 破損	交通 違反	不明	合計
28	1	64	3	0	1	2	1	8	80
29	4	65	0	2	0	6	0	16	93
30	6	54	2	0	1	3	0	21	87

◆介護事故・苦情報告

事故件数は222件あり、服薬関係については監事監査において事故防止に取り組むよう指導があったことから、再度施設長会議やリスクマネジメント会議などで介護マニュアルの確認を徹底するとともに、事故の発生について検証し、その結果を職員間で共有しながら事故の予防につなげました。

事故については、職員一人ひとりの意識の向上に向け「気づき改善シート」（事故が起きる前に気づいた事を書き出すシート）を活用し、重大事故とにならないように努めました。

<介護事故件数> (単位：件)

年度	報告件数	内 訳			
		骨折・ひび	服薬関係	その他のケガ等 擦過傷・アザ等	身体以外 連絡忘れ、破損
28	198	12	37	31	118
29	215	9	36	43	127
30	222	6	31	29	156

<苦情を含む事故> (障がい・児童保育・福祉センター・包括を含む) (単位：件)

年度	身体事故に よる	送迎や訪問 の時間遅れ	調整漏れ、忘 れ、間違い	荷物等の紛 失破損	その他	合計
28	10	24	39	4	7	84
29	5	46	17	5	14	87
30	6	29	37	23	11	106

④ 施設における地域貢献活動

これまで各施設で行ってきた環境美化活動や専門職による出前講座、サロンの開催等を通じ、学区・地区社協や関係機関、小・中学校との交流を深め、また、地域の拠点施設として社協の人材を活用しながら地域貢献に努めました。

また、おおやま特養では、大山コミセンや地域包括支援センターの協力を得ながら 8 月に認知症カフェを開催し、地域に開かれた施設を目指しました。

⑤ 経営的視点を持った施設運営

介護保険制度改正に対応するため、高齢者の自立支援や重度化防止を重点に専門職を中心とした機能訓練を行い、目標稼働率の維持向上に努めました。さらに、各事業を通し自分らしい生活など利用者の状況に応じた支援を行うことで利用者満足を実現し、地域に貢献することができる健全な施設運営を目指しました。

(3) 高齢者福祉関連事業

① 通所介護事業

地域に開かれた施設として積極的に地域に出向き、地域の中にある施設としての役割を果たしました。

利用者本人が持つ力や意欲を引き出せるような支援に努めるとともに、看護師・理学療法士・作業療法士等の専門職による個別機能訓練に力を入れ、利用者の心身機能の維持向上に努めました。

認知症対応型通所介護事業については、地域密着型の施設として 6 ヶ月に一度の運営推進会議¹⁾を開催し、施設の状況報告のみならず地域住民や関係機関との意見交換により地域ニーズを拾うなど、地域に開かれた施設として地域の関わりを大切にしました。

<通所介護事業実績> (暫定・障がいを除く)

年度	一般	認知症	予防 (支援 1.2)	総合事業		合計	平均 利用率
				サービスA	現行相当		
28	55,573 人	11,710 人	8,765 人	—	—	76,048 人	80.82%
29	55,063 人	11,693 人	4,312 人	450 人	4,417 人	75,935 人	79.29%
30	53,390 人	11,943 人	0 人	713 人	8,142 人	74,188 人	77.98%

一般・予防デイ (たかだて・なえづ・とようら・ふれあい・おおやま・くしびき・愛寿園)

認知症対応型デイ (たかだて・なえづ・ふれあい・くしびき・はちもり)

② 訪問介護事業

利用者が住み慣れた地域の中で、自分らしい生活の楽しみを見つけながら在宅生活が維持できるよう、関係機関との連携のもと、きめ細やかなサービス提供に努めました。

¹⁾ 運営推進会議：定員 18 人以下の小規模型通所介護事業所において、利用者や利用者の家族、地域住民等をメンバーとした会議を開催し、活動状況の報告等を行う会議。

新規利用者、訪問回数が共に減少していますが、喀痰吸引や経管栄養ができる介護職員を増員、専門性の高い訪問介護事業所を目指しました。

<訪問介護事業実績>

年度	項目	一般			予防	総合事業(現行相当)		合計
		身体介護	身体生活	生活援助		身体含む	生活のみ	
28	回数(回)	22,818	7,211	29,909	8,194	—	—	68,132
	割合(%)	33.49	10.58	43.90	12.03	—	—	100.00
29	回数(回)	22,019	5,258	26,530	3,364	683	3,981	61,835
	割合(%)	35.61	8.50	42.91	5.44	1.10	6.44	100.00
30	回数(回)	24,257	5,120	21,479	—	1,209	7,215	59,280
	割合(%)	40.92	8.64	36.23	—	2.04	12.17	100.00

③ 居宅介護支援事業

居宅介護支援事業では、要支援、要介護1・2の方が増える一方で要介護3・4・5の方が減少しました。また、事業対象者(予防プラン)が増えたため、全体では延べ利用者数が326人増となりました。

介護保険制度改正により、今まで以上に医療と介護の連携や質の高いケアマネジメントの推進が求められているため、計画的に会議や研修会を開催し職員の資質向上に努めるとともに、他職種連携のもと日常の様々な場面で本人の潜在能力を引き出すことができるようなケアプラン作成に努めました。

<居宅介護支援事業 ケアプラン延べ作成数> ※暫定除く (単位:件)

年度	要介護		要支援1・2	事業対象	合計
	要介護1・2	要介護3・4・5			
28	9,546	5,295	343	—	15,184
29	9,460	4,813	281	87	14,641
30	9,537	4,669	533	228	14,967

④ 短期入所事業

利用者やその家族が必要とするときに必要なサービスを適切に提供できるよう、居宅介護支援事業所との緊密な連携に努めながら、職員間で利用者の情報を共有し安心して利用していただけるよう努めました。

<短期入所事業利用実績> (はちもり：利用率・延べ人数に障がい含む)

年度	おおやま			はちもり		
	利用率	延べ利用数	平均介護度	利用率	延べ利用数	平均介護度
28	87.79%	8,331人	3.03	96.59%	3,173人	2.14
29	91.34%	8,668人	3.11	88.34%	2,902人	2.36
30	91.48%	8,681人	3.10	93.73%	3,079人	2.45

⑤ 訪問入浴事業

利用者が可能な限り、居宅において有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう快適で満足いただける入浴の援助を行いました。一人ひとりに合わせた会話や働きかけを通し安心して入浴していただき、身体清潔の保持・心身機能の維持に取り組み、安全で快適な入浴介護を提供しました。

<訪問入浴事業利用実績>

年度	利用延べ回数(介護)	備 考
28	653回	1台稼働
29	462回	1台稼働
30	696回	1台稼働

⑥ 特別養護老人ホーム、グループホーム

ユニットケアの更なる資質向上を目指し、利用者一人ひとりのこれまでの生活を理解、尊重し、その人らしさを大切に家庭的な温かい雰囲気の中で日常生活の支援を行いました。また、地域住民の一員として積極的に地域行事に参加したり、施設に来ていただくような交流を通し心豊かな生活が送れるよう努めました。

<特別養護老人ホームおおやま> 定員 124人

年度	入居率	延べ入居人数	平均介護度
28	96.71%	43,770人	4.30
29	96.67%	43,755人	4.32
30	96.57%	43,706人	4.18

<グループホームはちもり> 定員 9人

年度	入居率	延べ入居人数	平均介護度
28	99.18%	3,258人	2.60
29	97.72%	3,210人	2.81
30	98.75%	3,244人	3.49

⑦ 高齢者生活福祉センター（市受託）

在宅での生活に支障がある高齢者に一定期間住居を提供することにより、安心感のある生活が送られるよう支援しました。

<くしびき高齢者生活福祉センター> 定員 10 人

年度	延べ入居者数	入居者数（月平均）	入居率
28	1,463 人	121.9 人	40.1%
29	1,165 人	97.1 人	31.9%
30	1,174 人	97.8 人	32.2%

⑧ 老人福祉センター

鶴岡老人福祉センターでは、60 歳以上の高齢者が気軽に利用して一日を楽しく過ごせるようレクリエーションや講座などを行ったほか健康相談を実施しました。

羽黒福祉センター及び櫛引福祉センターでは、地域福祉を推進する拠点として、地域の方々や福祉関係団体等の研修、福祉活動をはじめ介護予防事業や高齢者の生きがいと健康づくり事業等、様々な事業に利用していただきました。

<利用者数>

(単位:人)

年度	鶴岡	羽黒	櫛引
28	20,507	1,824	2,214
29	20,340	1,463	1,789
30	17,683	2,767	2,382

(4) 独自事業

① 介護職員初任者研修

受講希望者の減少傾向を受け、30 年度は介護職員等が働きながら資格取得ができるよう夜間に講座を開催するとともに、これまで年 2 回開催してきた研修を 1 回に整理しながら介護職員の養成を行いました。

<受講状況>

(単位:人)

年度	申込者数	受講者数	修了者数	募集定員（内社協枠）
28	19	17	16	50 (10)
29	21	21	21	50 (10)
30	13	13	14	25 (5)

※ 30 年度修了者数には 29 年度補講者 1 人含む。

② 介護職員実務者研修

介護の現場で働く人がより実践的な技術と知識の習得、介護サービスの質の向上が図られ、社協職員や鶴岡市内の施設・事業所で働く介護職員の介護福祉士の資格取得が促進されることを目指し、介護職員実務者研修通信課程を開講しました。

全国社会福祉協議会中央福祉学院による通信学習と鶴岡市社会福祉協議会でのスクーリングによる合計 450 時間の課程により資格取得ができるものとなっており、さらに講師陣の育成にも力を入れました。介護福祉士試験では 13 人中 12 人が受験し 11 人が合格することができました。

<受講状況>

(単位：人)

年度	申込者数	受講者数	修了者数	募集定員 (内社協枠)
30	14	13	13	18 (10)

③ 生涯現役推進事業「なりげんき塾」

「仲間づくり・生きがいくくり・地域づくり」を目標に、健康運動実践指導者による介護予防体操や筋力トレーニングを中心に、町内会など住民の身近な地域に出向いて「なりげんき塾」を継続して実施しました。

<開催状況>

コース	開催地等	参加人数	実施期間	会場
毎週	手向	33 人	4 月 19 日～6 月 28 日	手向地区地域活動センター
	朝日ふっくら	12 人	4 月 20 日～7 月 6 日	健康の里ふっくら
	温海	16 人	6 月 5 日～8 月 7 日	温海ふれあいセンター
	三瀬	15 人	5 月 28 日～10 月 15 日	個人宅
	中屋	10 人	8 月 23 日～9 月 27 日	広瀬地区地域活動センター
	湯田川	14 人	9 月 28 日～12 月 14 日	湯田川コミュニティセンター
	八栄島	11 人	10 月 23 日～12 月 25 日	八栄島活動センター
	櫛引男塾	7 人	11 月 12 日～2 月 4 日	櫛引老人福祉センター
	田代	13 人	1 月 8 日～3 月 12 日	田代地区公民館
	朝日南部	14 人	1 月 11 日～3 月 15 日	朝日南部コミュニティセンター
隔週	高寺	17 人	6 月 6 日～10 月 17 日	高寺公民館
	堅苔沢	24 人	10 月 31 日～3 月 6 日	堅苔沢公民館
	中清水	19 人	11 月 1 日～3 月 7 日	中清水公民館
合計	13 カ所	205 人		

④ 専門職資質向上研修

通所介護部門では、天童市内で自立支援型デイサービスを運営している株式会社つるかめの伊藤順哉氏を講師として「自立支援型デイサービスへの転換」をテーマに研修会を開催し、自立支援の基本的な考え方や自立支援型デイサービスへの転換方法を学びました。

また、株式会社つるかめで運営する事業所へ職員を派遣し、実際の現場での支援方法を学び、その後の伝達研修で作業分析の手法等を伝えることで、自立支援型デイサービスにおける支援をさらに深めることができました。

居宅介護支援部門では「生活保護制度」をテーマとした研修会を開催しました。研修では、生活保護制度をとりまく状況や制度の概要、さらに具体的な支援事例を学ぶことで制度に関する知識を深め、今後の利用者支援に生かすことができました。

<研修参加人数と内容>

	内 訳	参加人数	内 容	
事業推進課企画	公開研修	167人	演 題：「『介護業界に新たな風を』 ～介護はおもしろい～」 開催日：平成30年9月28日（金） 講 師：NPO法人U b d o b e 理事 中浜崇之氏 場 所：出羽庄内国際村	
専門職研修	通所介護	63人	デイサービス職員研修 演 題：「デイサービスの自立支援に向けた 取り組みについて」 開催日：平成30年7月27日（金） 講 師：株式会社つるかめ 総括責任者 伊藤順哉氏	
			23人	生活相談員会議伝達研修 演 題：「山形市自立支援型地域ケア会議」 「事例で学ぶ生活相談員支援力アップ基礎研修」 開催日：平成31年2月18日（月） 講 師：三浦崇主任（くしびきデイ） 工藤智美介護員（はちもりデイ） 五十嵐美紀係長（はちもりデイ） 五十嵐美紀子主任（愛寿園デイ）
				62人

			講 師：鈴木崇史介護員（おおやまデイ） 石塚希作業療法士（ふれあいデイ）
	居宅介護支援	38 人	演 題：「地域福祉課・生活支援課の業務内容について」 開催日：平成 30 年 9 月 6 日（木） 講 師：地域福祉課長 佐藤幸美 生活支援課長 万年由美
		36 人	演 題：「生活保護制度について」 開催日：平成 30 年 12 月 12 日（水） 講 師：鶴岡市福祉課 課長補佐 齋藤啓氏
派遣 研修	外部派遣	28 人	カウンセリングゼミナール 認知症の人に対する支援の方法 事例で学ぶ生活相談員支援力アップ基礎研修 障がい児・者福祉関係種別新任職員研修 障がい児・者施設職員研修「プロのまなざし」 山形県障がい者虐待防止・権利擁護研修 強度行動障がい支援者養成研修（基礎研修） 山形市自立支援型地域ケア会議視察研修 自立支援型デイサービス視察研修 介護経営戦略セミナー 障害福祉事業経営セミナー 高齢者福祉事業経営セミナー
			26 人
	3 人	リスクマネジャー養成講座（初級・上級）	
	障がい福祉福祉サービス部門	103 人	工賃向上に関して 権利擁護・意思決定・支援力向上 虐待防止
	安全運転研修会	71 人	演 題：「交通事故防止について」 開催日：平成 30 年 10 月 30 日（火） 講 師：山形県鶴岡警察署交通課 奥山雄大氏

各施設企画研修	居宅介護支援	936 人	ケアプラン点検について 介護保険と障害福祉制度について 他事業所との事例検討会 リスクマネジメント研修 高齢者虐待予防研修
	通所介護	1,025 人	感染症予防について 法令順守・服務規定について 防災研修及び救急救命について リスクマネジメントと事故防止 メンタルヘルス研修
	訪問介護	996 人	職業倫理、法令順守について コミュニケーション研修 感染症、食中毒について 緊急対応、AED研修 調理実習
	訪問入浴	18 人	身体拘束と虐待の防止について 感染症予防、救急救命について
	おおやま入居 (特養・短期)	1,658 人	災害時避難訓練、AED研修 リスクマネジメントについて ユニットケアについて 認知症研修 食中毒について
	はちもり (GH・短期)	153 人	高齢者の脱水予防、感染対策について 職員のメンタルヘルスについて 身体拘束、高齢者虐待の防止について
	かたぐるま もみじが丘	284 人	感染症による緊急時対応 権利擁護についての演習
	外部派遣	398 人	認知症対応力向上研修会 認知症について ユニットケア研修 感染症研修 医療と介護の連携について 口腔ケア、嚥下障害について 介護支援専門員スキルアップ研修
合計(延べ)	6,088 人		

※研修の集計には、障がい福祉サービス事業も含む。

4. 障がい者福祉事業

(1) 総括

利用者が地域の中で安心して自立した日常生活を送ることができるように、関係機関との連携を図りながら意思決定の支援を心掛け、利用者の望む暮らしに向けた支援と権利擁護の推進に努めました。

また、障害者相談支援事業所や他の事業との連携のもと、自立支援の視点を持ちながら一人ひとりのニーズに沿った個別支援を充実させ、利用者に寄り添った支援に努めました。

(2) 重点事業

① 障がい福祉サービスの充実

利用者一人ひとりのニーズを的確に把握して、将来を見据えた個別支援計画に基づき、施設内の職員の連携はもとより事業所を超えた他職種が連携し合い、地域の中で暮らす「本らしい生活」を支えることに努めました。

② 利用者の権利擁護の推進

職員全員が倫理観を高めるよう、障害者差別解消法や障害者虐待防止法などの制度の学習を通し、利用者の尊厳の保持と権利擁護の推進を図りました。

施設ごとに作成している「職員倫理綱領」は、事業所の権利擁護に関する指針となるため、定期的に確認を行い職員全体の意識が高まるよう努めました。

かたぐるまでは2ヵ月に1回、権利擁護推進委員会を中心に権利擁護の意識付けに取り組みました。

③ 地域交流・地域貢献の推進

地域の方々との交流や環境美化活動・イベント等への積極的な参加を通し、利用者が地域へ出ていく活動を進めると同時に、地域住民から施設に足を運んでいただく機会をつくり、障がい者に対する理解を広げていく活動を進めました。

④ リスクマネジメントの推進

リスクマネジメント委員会による取組の中で、障がい福祉サービスにおける事故や苦情の分析・評価を明確にし、リスクマネジメントの共有を図るとともに、利用者自らが危険防止に対する活動に参画するなど意識の向上に努めました。

更なる4S運動（整理・整頓・清掃・清潔）を進め、事故やトラブルを未然に防ぐ環境整備に努めました。一方、事故件数は45件発生し、特に身体以外（忘れ）が多くありました。手順書の確認を徹底するとともに事故の発生について検証し、その結果を職員間で共有しながら予防につなげることにしました。

<事故件数>

(単位：件)

年度	報告件数	内 訳			
		骨折・ひび	服薬関係	その他ケガ等	身体以外(忘れ)
28	24	1	0	5	18
29	13	0	2	5	6
30	45	1	8	2	34

(3) 障がい者福祉関連事業

① 就労継続支援事業

利用者が生産活動やその他の活動を通し、自立した日常生活や社会生活が送れるよう就労の機会を提供するとともに、積極的に地域との関わりを深め施設から情報発信を行い、障がい者理解と協力の輪を広げました。新しい製品の開発や品質の向上、販路の拡大等、利用者工賃の増額に努めました。かたぐるまでは、10月から新規開店したハンバーガーショップにパンを毎日50個届けるなど販路拡大に努めました。また、もみじが丘では、7月からケーキをかたぐるま喫茶で土・日曜日に販売するなどの取組を行い、売上げ増を図ることができました。

<就労継続支援事業B型の延べ利用者数>

(単位：人)

年度	かたぐるま	もみじが丘	合計
28	8,056	5,168	13,224
29	8,310	4,920	13,230
30	8,371	4,342	12,713

② 在宅支援事業

利用者一人ひとりの障がい特性や個別ニーズに応じ、安心して在宅生活が送れるよう職員の資質向上、支援力の向上に努めました。新規利用者が増えない現状の中で、相談支援機関とのより一層の連携が必要と考えます。

居宅介護・重度訪問介護事業では、訪問介護員の障がい者支援の専門性を高めるため、研修会への積極的な参加や施設実習、喀痰吸引等の専門的な資格を取得し、障がい者の在宅生活を支え信頼される事業所を目指しました。

<生活介護・自立(生活)訓練 延べ利用者数>

(単位：人)

年度	なえづ (生活介護)	かたぐるま (生活介護・自立生活)	もみじが丘 (生活介護)	合計
28	4,192	6,517	1,694	12,403
29	3,993	5,714	1,813	11,520
30	3,559	5,631	1,828	11,018

<訪問介護事業 延べ利用回数>

(単位：回)

年度	居宅介護			重度訪問	移動支援	合計
	身体介護	家事援助	乗降介助			
28	10,482	6,506	—	1,222	117	18,327
29	11,238	6,913	59	1,615	86	19,911
30	10,845	6,129	151	1,787	79	18,991

<訪問入浴事業 延べ利用実績>

年度	利用延べ回数	備 考
28	456 回	1 台稼働
29	537 回	1 台稼働
30	470 回	1 台稼働

5. 児童福祉事業

(1) 総括

児童福祉事業においては、子ども・子育て支援新制度等を踏まえ、利用者個別のニーズにできる限り応えることで子どもの健全育成を図りました。

また、質の高いサービス提供ができるように、職員の各種研修会への参加やその報告会を開催することで自己研鑽や意識向上を図り、事業所間の連携を深め安全で安心な環境づくりに努めました。

(2) 保育所

各保育園がそれぞれの地域とつながることで、その地域の自然を生かした体験活動や地域住民との積極的な交流により、子どもの健全な成長・発達を支援しました。

また、関係機関と連携し、地域ニーズの把握とその対応に努めました。職員の資質向上の側面では、4つの保育園合同の研修会を実施し、保育園職員全員の保育力アップを図りました。

29年度から本格的に運用を開始した業務効率化に係る支援ソフトの活用については、職員や保護者の間で大方浸透し、業務の総合的な見直しや改善を図ることができました。

(3) 児童館

保護者同士の仲間づくりの場や多様化する子育て支援ニーズに応えるため、地域や関係機関との連携を深めながら子育て情報の収集や発信に努めるとともに、親子が安心して集える居場所づくりの拡充を図りました。

また、法人が運営する5つの児童館が共同で事業を企画するなど児童館相互の連携強化を図るとともに、施設機能を活用した公益的な取組のあり方の検討を進めました。各児童館で世代間交流や体験学習など様々な主催行事や中・高校生を対象とした新たな事業展開も行い、自由来館事業の拡充に努めました。

<合同行事参加人数>

(単位：人)

行 事 名	人数	内 容
はなまるランド	204	開催日：平成30年6月14日(木) 会場：朝暘武道館 5児童館合同+まんまルーム
はなまる運動会	122	開催日：平成30年9月27日(木) 会場：朝暘武道館 3児童館(中央・西部・暘光)合同
逃走中	142	開催日：平成30年10月21日(日) 会場：小真木原運動公園 5児童館合同

(4) 学童保育所・放課後児童クラブ（放課後児童健全育成事業）

登録者数が増加傾向にある学童保育所について、児童が安心して放課後を過ごせるように借家による施設設備の整備を実施し、保育スペースの確保や児童の居場所づくりに努めました。

職員配置による運営面での支援強化については、人材確保が困難な状況が続きましたが、各種研修会への参加や個別事例の対応による職員の資質向上に努めました。

また、30年度に導入した一斉メール配信システムなどを活用し、家庭や学校との情報共有や保護者会との密接な連携をとることで信頼関係を構築し、気になる児童等への適切な対応も含め安心して放課後を過ごせる環境づくりに努めました。

毎月の避難・消火訓練、自然災害時による休校などの連絡や集団下校訓練での引渡し訓練を実施したり、学校とも密に連絡を取りながら安全対策に努めました。

さらに、31年度からの保育料金改定に向け、開所時間に合わせた料金体系の見直しや学年別料金の廃止、登録方法の見直しなどを検討し運営規程の改正を行いました。

(5) 子育て広場

県外からの転勤者家族や、29年7月にマリカ東館に新たに開設された「食文化広場FOODEVER¹²」と併せて利用される方、また、近年の猛暑の影響により、特に夏期間は涼を求めている利用者が増えましたが、施設の老朽化に伴い空調設備に不具合が生じるなど安心・安全な利用への課題も見られました。

子育てに関する情報提供や乳幼児の親子を対象とした講座などの開催を通じ、親子が楽しく遊べる居場所づくりに努めました。

また、専門職による子育て相談事業の充実を図り、子育てに関する不安や悩みへの個別対応や利用される親同士の関係づくりや仲間づくりを支援しました。

¹² 食文化広場FOODEVER：食文化発展拠点として、鶴岡市の食を味わえる飲食店や、厳選された食材・土産品を扱う複合施設で、29年7月に開設された。

6. 苦情報告

30年度の苦情の全体件数は247件で、29年度と比較すると15件の増となりました。部門別では「訪問介護」「居宅支援」「障がい施設」で増加しました。ミスに対して相手が望む気持ちを苦情・要望として受け止めることで件数増加に至る部分はありますが、同じようなミスを繰り返さないように努めます。

苦情解決は、サービスの質の向上に寄与するものとしてより適切な対応が求められるものになります。「接遇マニュアル」の活用や「コンプライアンス」の意識付けに取り組みながら、今後も要望レベルである「利用者の声」を大切に、サービスの質の向上につながるように努めます。

<苦情件数>

(上段：件数、下段：実人数)

年 度	事務局・老セン	通所介護	訪問介護	居宅支援	訪問入浴	特別養護老人ホーム	短期入所	グループホーム	障がい施設	児童館・学童保育所・保育園	地域包括支援センター	福祉センター	合計
28	9	71	16	44	0	11	19	0	27	17	9	5	228
	6	64	12	40	0	10	19	0	25	17	9	5	207
29	6	98	20	37	0	4	15	0	25	22	5	0	232
	6	85	19	37	0	4	13	0	22	21	4	0	211
30	2	93	24	50	1	7	15	1	36	16	1	1	247
	2	87	22	45	1	7	12	1	31	16	1	1	226